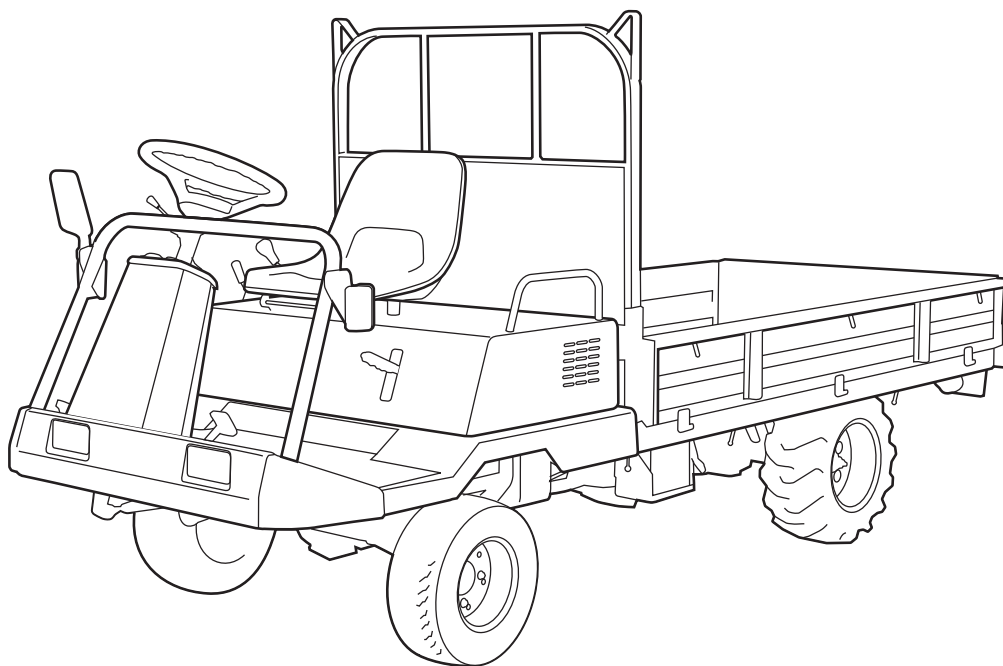


小型特殊自動車

J81

取扱説明書

下町小町



・ご使用前に必ずお読みください。

3736 6101 000 02

本書について

このたびは、本製品をお買い上げいただき、まことにありがとうございます。

本書は、本製品の正しい運転操作および保守・点検方法を知っていただくために、詳しい情報を提供することを目的とし作成しています。本製品をご使用になる前に必ず本書を読み、理解された上で、正しい取り扱いをしてください。

また、エンジン取扱説明書もあわせてお読みください。

なお、本書ははじめて本製品を使用される方を対象として作成しています。

警告

- ・ 本書を必ず読んで内容を理解してから本製品の運転および保守・点検を行ってください。
- ・ 本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本書はいつでも参照できるように大切に保管してください。

本製品について

警告





- ・ 本製品には、潜在する危険があります。本製品の運転操作および保守・点検を行う場合は、必ず本書に従ってください。
- ・ 本製品は農業用の運搬車です。それ以外の用途では使用しないでください。
- ・ 本製品を改造して使用しないでください。また、安全カバー等を取り外して使用しないでください。重大な事故の原因となります。

アドバイス

- ・ 本製品は市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。交付申請の方法は「8. 小型特殊自動車登録申請の手引き」を参照してください。なお、公道運転時には、小型特殊自動車を運転することができる免許（小型特殊免許、普通免許、自動二輪免許など）が必要です。運転時は、必ず免許証を携帯してください。
-

本書の警告について

本書では、危険度の高さ（または事故の大きさ）にしたがって、警告用語を下記のとおり分類しています。以下の警告用語がもつ意味を理解し、本書の内容（指示）に従ってください。

警 告 用 語	意 味
 危 険	差し迫った危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う場合に使用されます。
 警 告	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、死亡もしくは重症を負う可能性のある場合に使用されます。
 注 意	潜在する危険な状態を示し、手順や指示に従わないと、中・軽傷を負う可能性のある場合に使用されます。また、本製品に物的損害が発生する場合にも使用されます。
 ア ド バ イ ス	注意を促したい場合、使用上役立つ情報について使用されます。

リース（レンタル）業者の皆様へ

注 意

- ・ 本製品を他の事業者または個人に貸し出す際には、取り扱い方法を明確に説明し、使用前に本書を必ず読むよう指導してください。

保証とアフターサービスについて

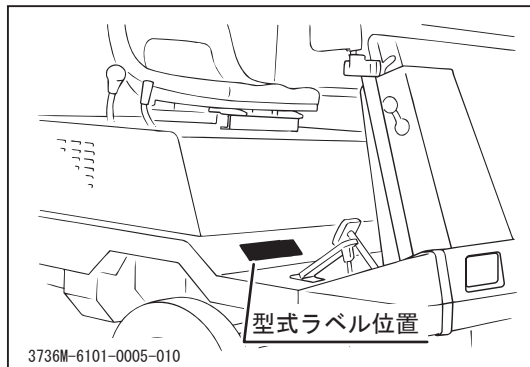
保証について

当社は本製品について、保証書の内容に基づいて保証をいたします。保証書の発行にはお客様登録が必要です。製品に同封のお客様登録カードをご記入の上ご送付ください。登録完了までの保証内容については本書巻末に貼付の仮保証書を参照してください。

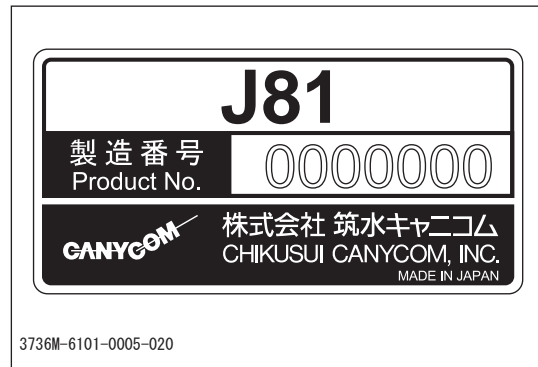
アフターサービスについて

ご使用中の不具合、ご不審な点およびサービスに関するご用命は、お買い上げいただいた販売店または当社センターへお気軽にご相談ください。その際、型式ラベルに記載の商品型式、製造番号および搭載エンジンのメーカー名、型式名を併せてご連絡ください。搭載エンジンのメーカー名および型式名については、本書の「本製品の仕様」（☞10ページ）を参照してください。

型式ラベル位置



型式ラベル



補修用部品の供給年限（期間）について

本製品の補修用部品の供給年限（期間）は、製造打ち切り後7年とします。

目 次

1. 安全に関する注意事項	1
本製品に貼付してある警告ラベルについて	1
安全運転・作業のための心得	2
運転前の心得	2
走行時の心得	3
積載時の心得	5
駐車時の心得	6
整備時の心得	7
2. 各部の名称とはたらき	8
各部の名称とはたらき	8
3. 製品仕様	10
本製品の仕様	10
付属品明細	11
4. 運転と操作	12
運転前の準備	12
始動前の準備	12
運転のしかた	13
始動のしかた	13
運転のしかた	15
停止のしかた	18
作業のしかた	20
ダンプ操作	20
荷台ドアの操作	22
2WD・4WD切換操作	23

5. 保守・お手入れ 24

定期点検表	24
給油・給水一覧表	25
給脂・注油一覧表	29
給脂・注油一覧表	29
消耗部品（交換部品）一覧表	30
給油	31
エンジンオイル	31
トランスミッション	32
デフオイル	33
パワーパッケージオイル（油圧ダンブ用オイル）	34
電装品	35
バッテリー液の点検・補給・充電	35
清掃	37
エアクリーナエレメント	37
点火プラグ	37
フューエルコック（フューエルフィルタ）	38
調整	39
クラッチ	39
Vベルト	40
ベルトストッパー	41
ホイールブレーキ	42
センターブレーキ	43
タイヤの空気圧	44
使用後のお手入れ	45
通常使用後のお手入れ	45
寒冷期使用後のお手入れ	45
長期保管のしかた	46

6. 不具合発生時の処置 47

不具合診断表 47

7. 本製品の移送 51

トラックへの積み降ろし要領 51

本機での移送 52

8. 小型特殊自動車登録申請の手引き 53

小型特殊自動車登録申請の手引き 53

保証書

本書の巻末に添付

※本製品の取扱説明を受けた後に、受領証と共に受け取りください。

付録

・エンジン取扱説明書

※本書とあわせて必ずお読みください。

本製品に貼付してある警告ラベルについて

本製品には下記の警告ラベルが貼付してあります。

この警告ラベルは安全に関して特に注意を要する事項について記載してあります。本製品を使用する際には必ず警告ラベルの指示に従い、禁止事項は絶対に行わないでください。

- ・ 警告ラベルの位置および内容について十分把握しておいてください。
- ・ 警告ラベルは内容がわかるようにいつもきれいにしておいてください。
また、清掃には有機溶剤やガソリンを使用しないでください。
- ・ 警告ラベルを損傷・紛失したり判別できなくなったりした場合は、新品と交換してください。部品番号は本書または実物で確認し、販売店へ注文してください。

<p>⚠ 危険</p> <p>坂道でギヤ抜けると、死傷するおそれがありますので、確実にギヤを入れて下さい。</p>	<p>⚠ 危険</p> <p>荷台が落下すると、死傷するおそれがありますので、必ず荷台落下防止棒で荷台を支えてください。</p>	<p>⚠ 警告</p> <p>取扱説明書を読んで、理解するまでは、本機の運転および保守・点検を行わないでください。</p>
<p>⚠ 危険</p> <p>積み荷が片寄ると、車体が転倒し、死傷するおそれがありますので、必ず積み荷は均等に載せ、ロープ等で固定してください。</p>	<p>⚠ 危険</p> <p>傾斜地の走行では、急停止やわずかな段差でも車体の転倒が起こり、死傷のおそれがありますので、慎重に走行してください。</p>	<p>⚠ 警告</p> <p>公道乗車定員 1名</p> <p>本機の公道乗車定員は1名です。同乗者を伴う運転は重心の移動等が起こり大変危険です。運転者以外は絶対に乗車しないでください。</p> <p>3714 6018 000</p>

⚠ 警告

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジンブレーキとフットブレーキを併用し低速にて走行してください。
10° 以上の下り坂は3速にて走行しないでください。

3712 6019 000

⚠ 警告

安全カバーを取外して運転したり、回転物に手を近づけると、手を巻き込まれ、けがをするおそれがありますので、絶対におやめください。

3451 6030 000

3736M-6101-0101-010

安全運転・作業のための心得

運転時・作業時に必ず守っていただきたい一般安全事項を記載しています。運転時・作業時には各章に記載されている安全事項についても必ず従い、安全運転、安全作業を心がけてください。

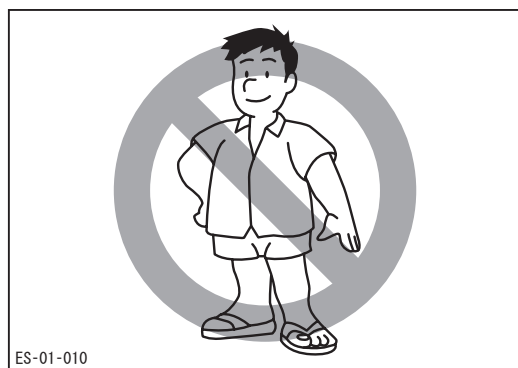
運転前的心得

免許

本製品は小型特殊自動車です。運転には小型特殊自動車を運転することの出来る免許（普通免許、普通自動二輪免許、小型特殊免許、大型特殊免許、中型免許など）が必要です。原動機付自転車（原付）免許では運転できませんのでご注意ください。

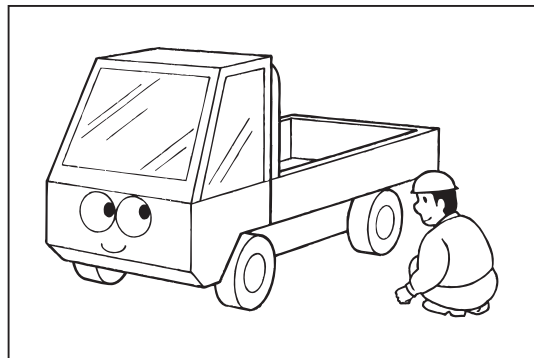
登録と保険

本製品を運転するためにはナンバープレートの取得と掲示が必要です。市町村役場などで登録を行ってナンバープレートを取得し、車体に取り付けてください。また、本製品は、自賠責（自動車賠償責任保険）に加入する必要があります。購入店や保険代理店、コンビニなどで加入して下さい。なお「小型特殊自動車」については加入ステッカーが発行されませんので貼り付け義務はありません。



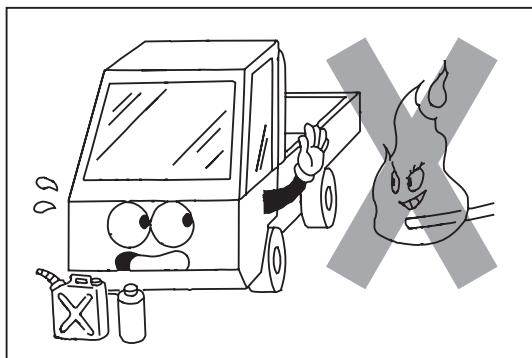
正しい服装と保護具の着用

運転・作業にふさわしい服装を心がけ、軽装やサンダル履き等で運転や作業をしないでください。



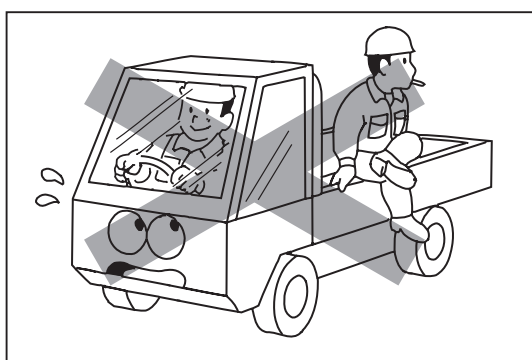
始業点検の励行

運転の前に必ず始業点検を行い、異常箇所はただちに補修してください。



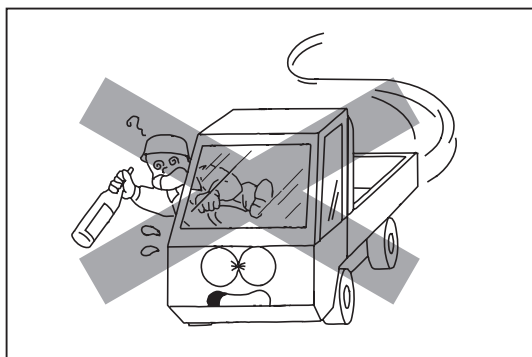
火気厳禁

燃料、油脂の取扱時は、火気を近づけないでください。また、バッテリーの充電中やエンジンの整備時にも、火気を近づけないでください。



同乗禁止

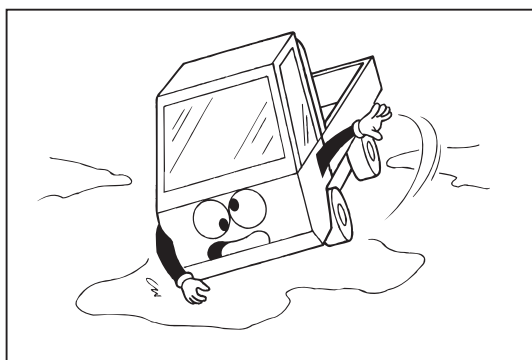
本製品は一人乗りです。運転者以外は乗せないでください。



無謀運転禁止

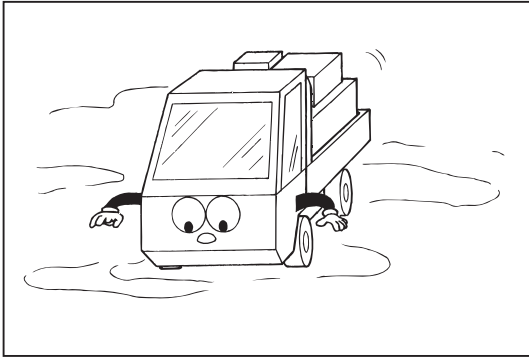
飲酒時や体調不良時には運転・作業を行わないでください。また、本製品の運転・作業に適さない人による運転・作業も行わないでください。

走行時の心得

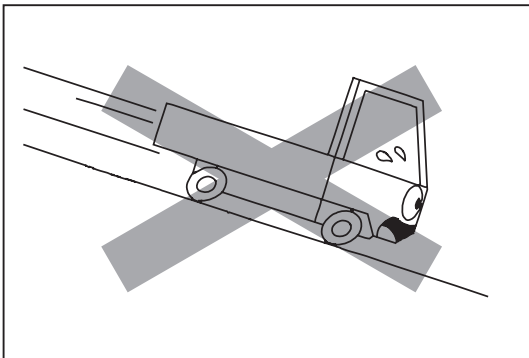


急発進、急加速、急旋回、急ブレーキの禁止

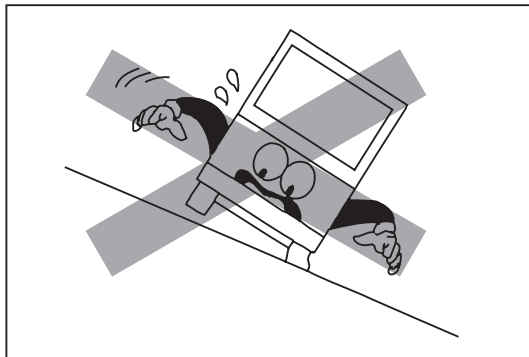
急発進、急加速、急旋回および急ブレーキは避け、安全運転を心掛けてください。発進の前には必ず周囲の安全を確認し、軟弱な地盤やぬれた路面での急旋回および急停車はスリップや転倒を招くおそれがあり危険ですので、絶対にしないでください。

**安全速度遵守**

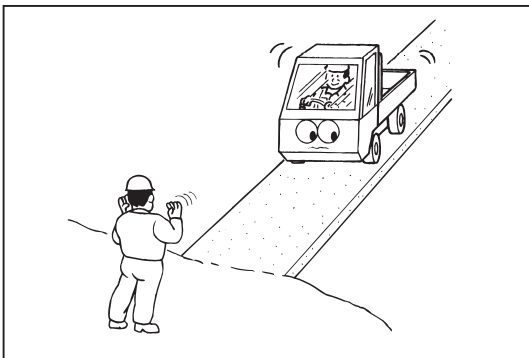
走行時は、走行路の勾配、路面の状態および積載量に応じた安全速度で走行してください。
また公道を走行する場合は、交通状況に応じた適切な速度で走行してください。

**下り坂ではエンジnbrake**

下り坂の前では、一旦停止した後、変速レバーを低速位置に入れ、エンジnbrakeを必ず使用して減速を行ってください（4輪駆動に切換えると、さらに効果的にエンジnbrakeを得ることができます）。フットブレーキを使用しすぎると、ブレーキの効きが悪くなるおそれがあり危険です。

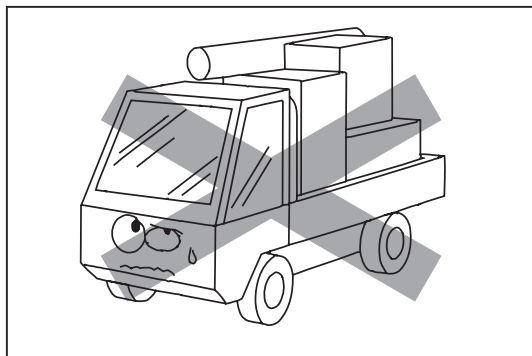
**斜面での横断禁止**

傾斜地ではまっすぐ昇り降りしてください。斜面を横断すると、転倒のおそれがあり危険です。

**危険な場所では誘導者の指示に従う**

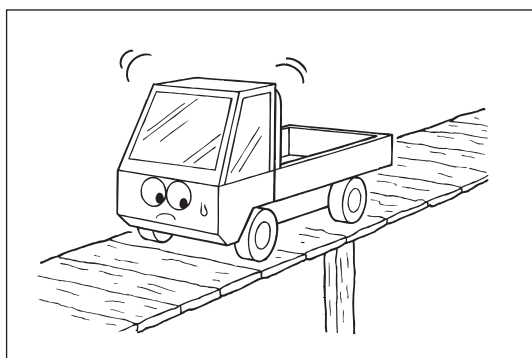
見通しの悪い場所や幅員の狭い道、傾斜や起伏の激しい道では誘導者の指示に従い、安全確認を十分行ってから走行してください。

積載時の心得



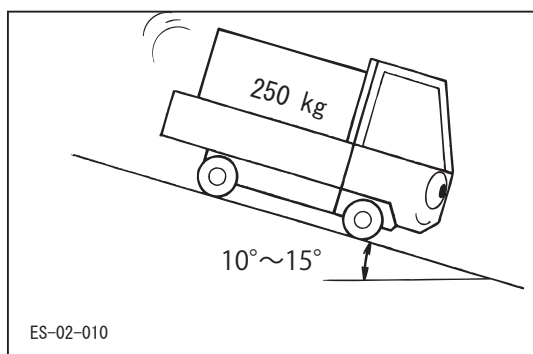
過積載禁止

本製品の仕様で規定されている最大作業能力を超える積載はしないでください。本機は道路交通法により、積載量は500kgまでと限定されています。



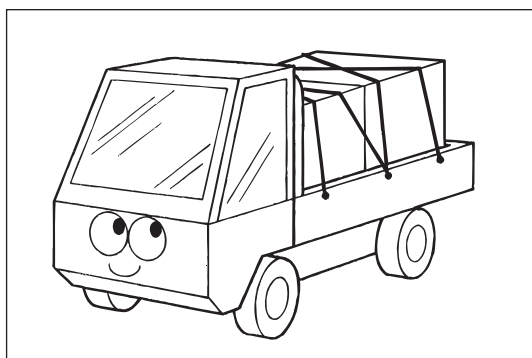
制限重量に注意

木橋等を渡る時は、本製品の機械重量と積載量の総重量が、木橋等の制限重量を超えないことを確認し、一定速度で慎重に通過してください。



傾斜地での積載量に注意

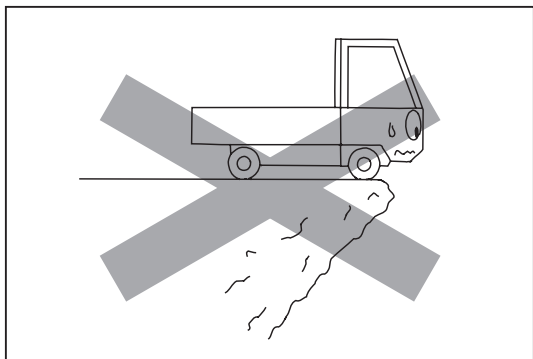
10°～15°の傾斜地では、積載量を250kg以下にして走行してください。15°を超える急傾斜地では、本製品をなるべく使用しないでください。やむを得ず使用する場合は、空車状態で運転をしてください。



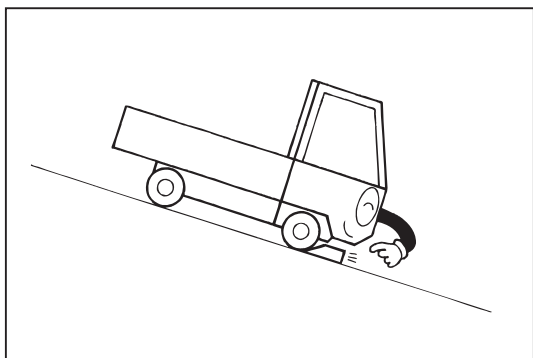
積み荷は正しく載せる

積み荷は偏荷重にならないよう、荷台に均一に載せ、ロープで固定するよう心掛けてください。また、積み荷の高さに注意し、視界を確保するよう注意してください。

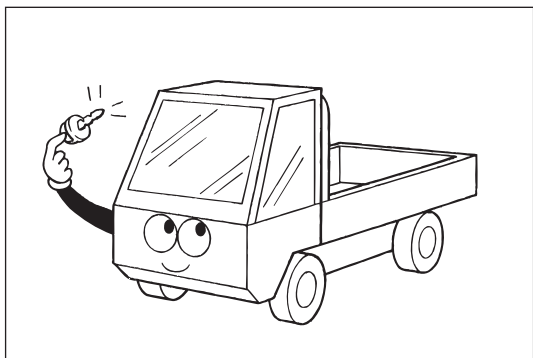
駐車時の心得

**危険な場所での駐停車禁止**

駐停車の際は足場のよい平坦地に車体を止め、危険な場所での駐停車はしないでください。

**坂道での輪止め励行**

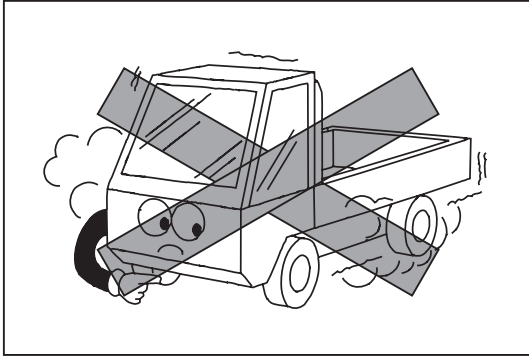
坂道での駐車は避けてください。やむなく坂道で駐車するときは、駐車ブレーキを確実にかけ、変速ギヤを前進1速または後進に入れた後、輪止めをしてください。

**駐車時の安全確認**

駐車時は、駐車ブレーキを必ずかけ、エンジン停止を励行してください。

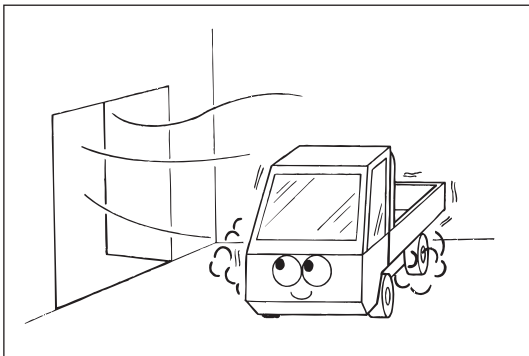
また、キーを忘れずに抜いてください。

整備時の心得



エンジン回転中の整備禁止

エンジン回転中は準備を行わないでください。必ずエンジンを停止してから整備をしてください。



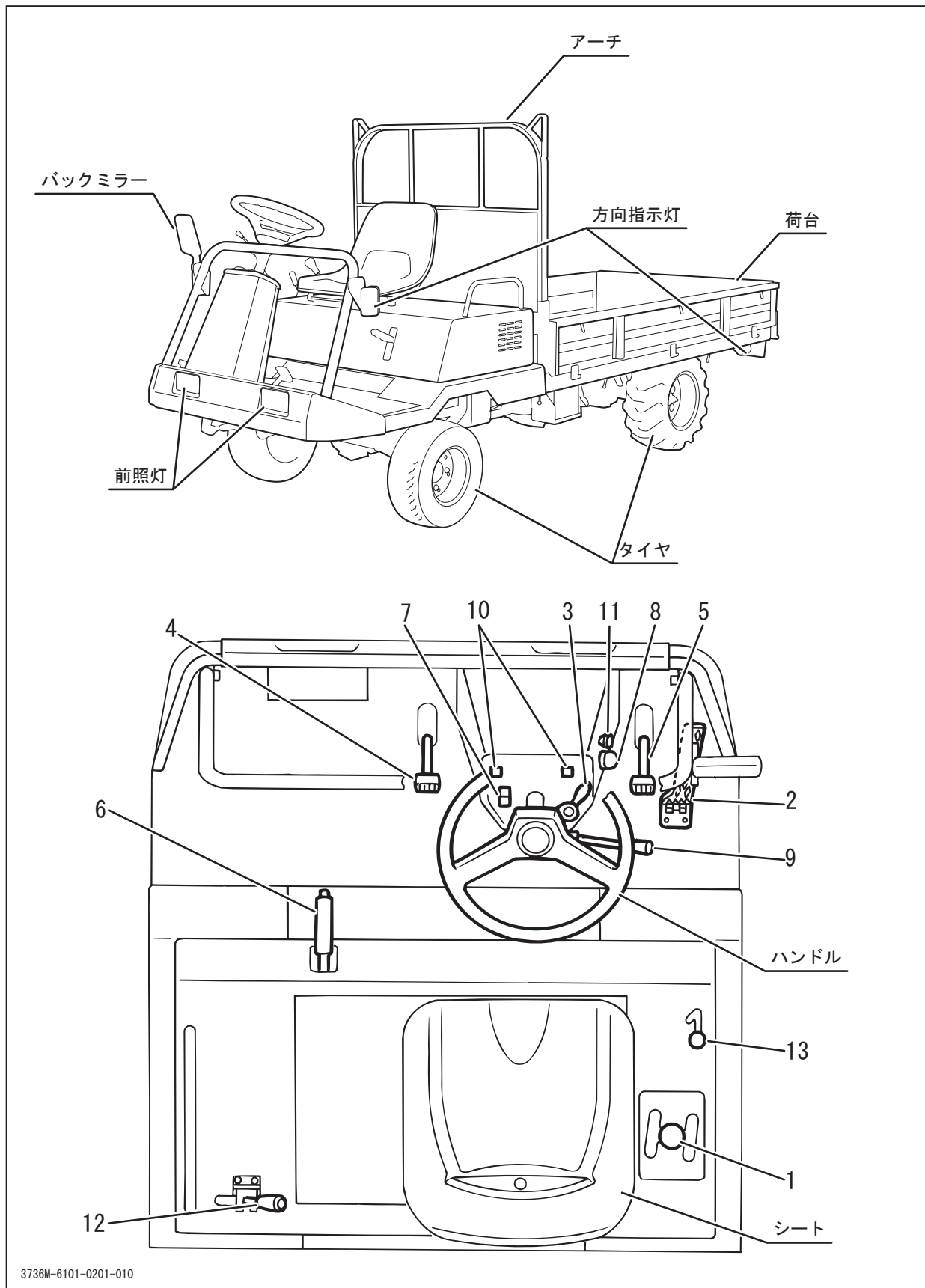
換気に注意

室内でエンジンを運転させる時は、排気ガスによる中毒防止のため、換気をよくしてから作業を行ってください。

2

各部の名称とはたらき

各部の名称とはたらき



3736M-6101-0201-010

- 1 変速レバー …………… 走行速度の選択に使用します。変速はクラッチペダルを踏み込み、車体が停止した状態で行ってください。
- 2 アクセルペダル …………… エンジン回転数の増減を行います。
- 3 アクセルレバー …………… エンジン回転数の増減を行い、一定回転数を保持します。
- 4 クラッチペダル …………… エンジンからトランスミッションへの動力を断続します。クラッチペダルを踏み込むとクラッチが「切」の状態になります。
- 5 ブレーキペダル …………… 車体の停止、または減速を行う時に使用します。
- 6 駐車ブレーキレバー …………… 車体を確実に駐車します。レバーを引くとブレーキがかかります。解除する時は、レバーを軽く引き上げ先端のボタンを押して下へ戻します。
- 7 ライトスイッチ …………… スイッチを押すと前照灯が点灯します。
- 8 エンジンキースイッチ …………… エンジンを始動および停止します。
- 9 方向指示灯/ホーン …………… 方向指示灯およびホーンを作動させるのに使用します。
コンビネーションスイッチ
- 10 パイロットランプ …………… ウインカと連動してランプが点滅します。
- 11 チョークレバー …………… レバーを引くとチョーク弁が閉じ、戻すと開きます。エンジン始動時に引っ張り、始動後戻します。
- 12 ダンプレバー …………… 荷台の「上昇」、「下降」を行う時に使用します。
- 13 4輪駆動切替レバー …………… 後輪がスリップする時に使用します。レバーを「入」にすると4輪駆動の状態、「切」にすると2輪駆動の状態になります。通常走行時は必ずレバーを「切」の状態で使用してください。

本製品の仕様

 注 意

・本製品の仕様を理解した上で、正しく使用してください。

名 称 ・ 型 式			J81		
機 械 質 量		kg	490		
最 大 作 業 能 力		kN(kg)	4.90 (500)		
機 械 寸 法	全 長	mm	3145		
	全 幅	mm	1185		
	全 高	mm	1600		
	軸 距 (ホ イ ール ベ ース)	mm	1720		
	輪 距 (ト レ ッ ド)	mm	前 900 / 後 790		
	最 低 地 上 高	mm	150		
	床 面 高 さ	mm	570		
荷 箱 内 側 寸 法	長 さ	mm	1845		
	幅	mm	1080		
	高 さ	mm	230		
エ ン ジ ン	名 称		三菱 GB290		
	形 式		空冷4サイクルガソリン		
	シリンダ(内径×行程)		mm	80×59	
	総 排 気 量		cm ³ (cc)	296	
	最 大 出 力		kW(PS)/rpm	5.8(8.0)	
	連 続 定 格 出 力		kW(PS)/rpm	4.4/1800(6.0/1800)	
	最 大 ト ル ク		N・m(kgf・m)/rpm	35.3/1400(3.6/1400)	
	始 動 方 式		セルフスタータ式		
	使 用 燃 料		ガソリン		
	燃 料 消 費 率		g/kW・h(g/PS・h)	353 (260)	
	燃 料 タ ン ク 容 量		ℓ	6.0	
	潤 滑 油 容 量		ℓ	1.0	
	バ ッ テ リ 形 式		40B19R		
	バ ッ テ リ 電 圧		V	12	
	バ ッ テ リ 5 時 間 率 容 量		Ah	28	
点 火 方 式		電子点火			
点 火 プ ラ グ 品 番		BPR5ES			

名 称 ・ 型 式					J81		
走行性能	走行速度	前進	1	速	km/h	3.8	
			2	速	km/h	7.9	
			3	速	km/h	14.9	
	能	後進	1	速	km/h	3.8	
			最小回転半径		m	2.95	
			登坂能力		度	20	
トランスミッション油量					ℓ	2.4	
デフ油量	デフ				ℓ	0.7	
	ナックル				ℓ	0.1 < 2ヶ所 >	
動力伝達装置	クラッチ形式				ベルトテンション		
	主変速形式				ギヤスライド		
	操向装置形式				前輪操舵		
	ブレーキ形式				内拵式ブレーキ		
	タイヤ				前 16 × 6.50-8 / 後 19 × 8.00-10		
ダン	ダンブ方式				一方ダンブ		
	荷台形式				箱型三方開き		
	ポンプ	形式				ギヤポンプ	
		油圧ポンプ	定格回転数		rpm	1500	
			定格吐出量		ℓ/min	8.0	
リリーフ設定圧			MPa (kgf/cm ²)	9.3 (95)			
装	シリンダ (内径 × 行程)				mm		55 × 200
	性能	最大上昇角度		度	56		
		上昇時間		sec	約 3		
		下降時間		sec	約 2		
	油圧作動油量				ℓ	1.6	

※この仕様は、改善のため予告なく変更することがあります。

付属品明細

No.	部 品 名	個 数	備 考
1	取扱説明書	1	本書
2	エンジン取扱説明書	1	
3	エンジン工具	1式	

運転前の準備

本章を読む前に第1章「安全運転・作業のための心得」（☞2ページ～7ページ）を必ずお読み下さい。

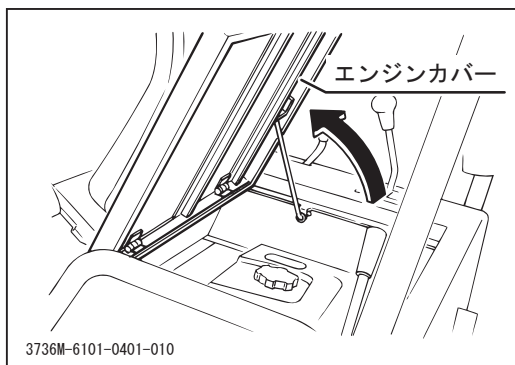
運転および操作については、必ず本章の指示に従い、自己判断による見切り操作は絶対に行わないでください。

始動前の準備

燃料の給油

警告

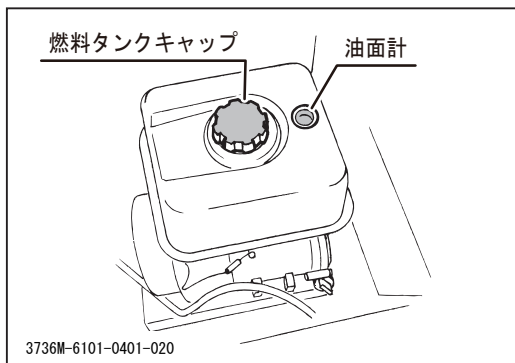
- ・ 給油の際は火気（タバコの火など）を絶対に燃料およびエンジンに近付けないでください。引火の原因となります。
- ・ 給油は必ずエンジンを停止した状態で行ってください。
- ・ エンジン停止直後はエンジンが高温になっているため、給油の際に燃料注入口から燃料がこぼれないよう十分注意してください。こぼれた際には速やかにふき取ってください。



1. シートを起こし、エンジンカバーを開けます。

アドバイス

- ・ 本機に備え付けのステーを使って確実にエンジンカバーを支えてください。



2. 油面計（フューエルゲージ）を目視点検し、燃料が不足している場合は、燃料タンクキャップを開け、燃料を補給します。

使用燃料：ガソリン

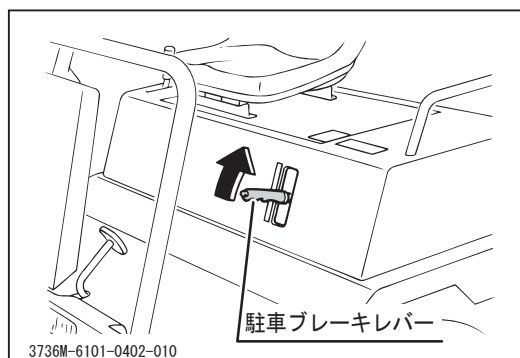
燃料タンク容量：☞10ページ

運転のしかた

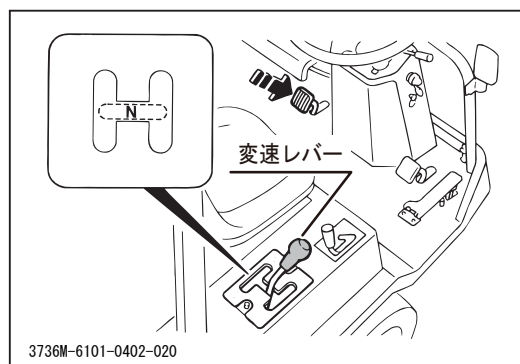
始動のしかた

⚠ 注意

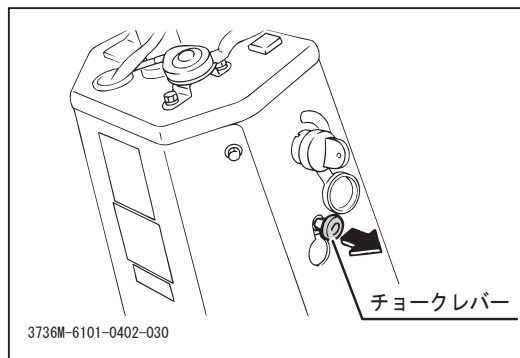
- ・ エンジンが暖まっている時は、チョークレバーを引く必要はありません。
- ・ 本機は始動安全装置を装備しているため、クラッチペダルを踏み込まないと、エンジンは始動しません。
- ・ 始動しない場合、5秒以上連続してセルモータを回さないでください。キーを「入」位置に戻し、10秒位休んでから再始動するようにしてください。
- ・ 頻繁なセル始動はなるべく避け、セルモータを起動したら、しばらく連続運転して、バッテリーを充電するようにしてください。
- ・ エンジン回転中は、キースイッチを「始動」位置に絶対に回さないでください。セルモータの破損の原因になります。
- ・ 購入後、最初の一週間（約40～50時間）は、慣らし運転期間として、過負荷をかけないように控えめな運転を行ってください。



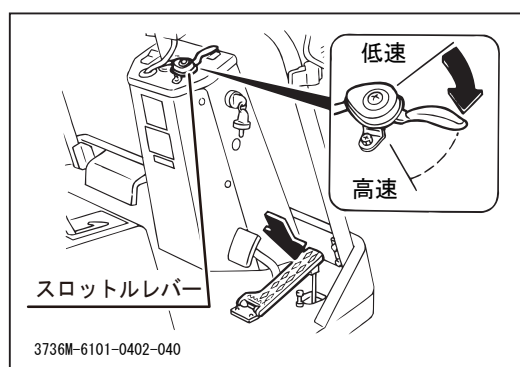
1. 駐車ブレーキがかかっていることを確認します。



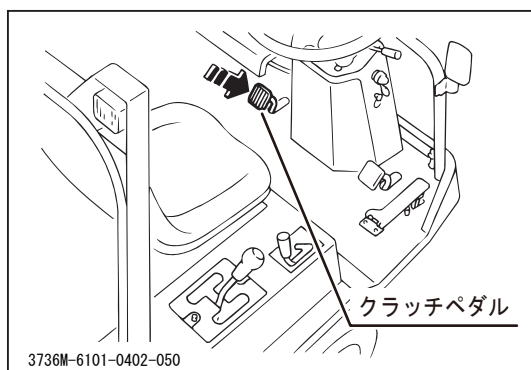
2. クラッチペダルを踏み込み、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



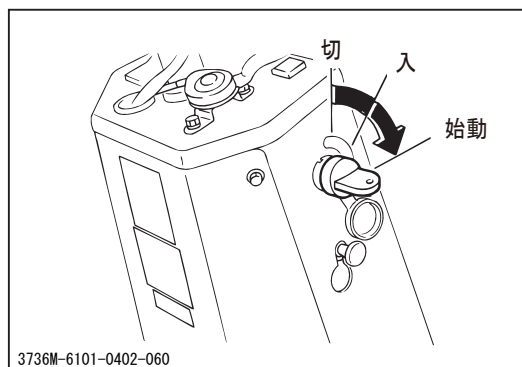
3. チョークレバーを引き、「全開（**N**）」の位置にします。



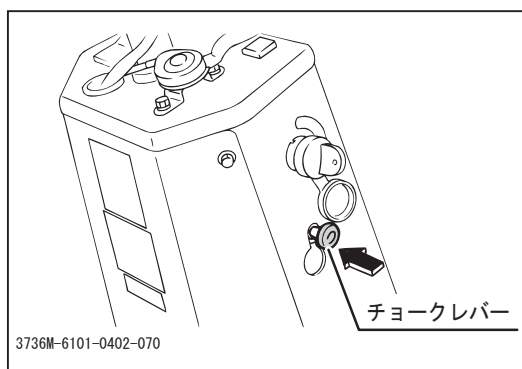
4. アクセルペダルを軽く踏み込むか、またはアクセルレバーを軽く引いて「低速」と「高速」の中間位置にします。




5. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



6. エンジンキーを差し込み、「始動」位置まで回し、エンジンを始動させます。
7. エンジンが始動したら、直ちにエンジンキーから手を離します。



8. アクセルレバーを「低速」側に戻します。
9. アクセルペダルから足を離します。
10. クラッチペダルから足を離します。
11. チョークレバーを「全開 ()」の位置に戻し、3～5分間暖気運転をします。

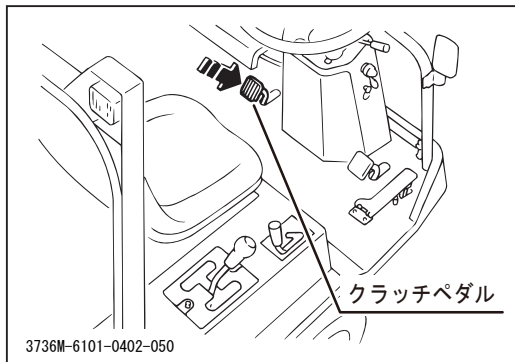
運転のしかた

⚠ 危険

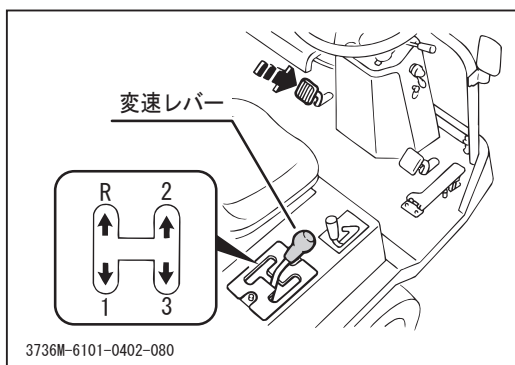
- ・ 変速（ギヤチェンジ）が不十分な場合、ギヤ抜けのおそれがあり大変危険です。ギヤが入りにくいときは、無理に入れずに、クラッチペダルを一旦離して再度踏み込み、確実にギヤチェンジを行ってください。
- ・ 高速走行での急旋回は転倒のおそれがあり、危険です。

⚠ 注意

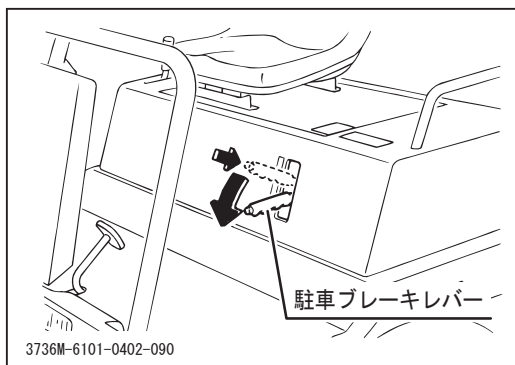
- ・ クラッチペダルを急に上げると、エンストする場合があります。
- ・ 走行中の変速はできません。必ず車体を停止させてから変速操作を行ってください。



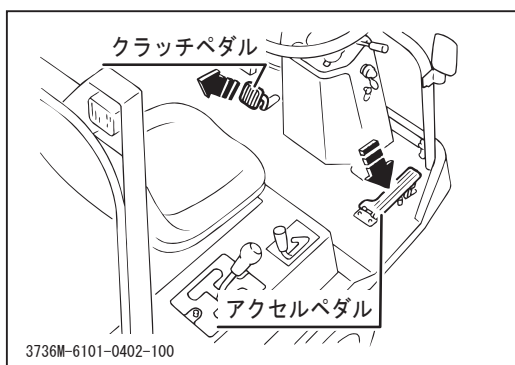
1. 車両の前後、左右の安全を確認します。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



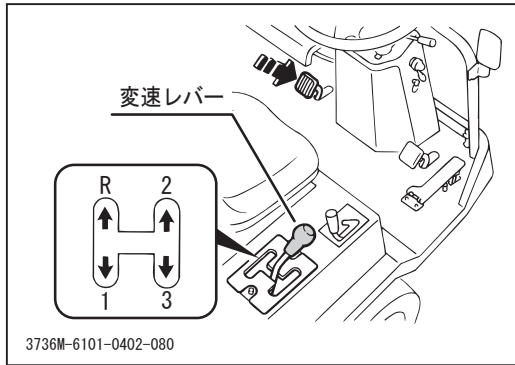
3. 変速レバーを前進（1速～3速）または後進（R）の任意の変速位置に確実に入れます。（各変速位置での走行スピードについては、「製品仕様」を参照してください。（10ページ））



4. 駐車ブレーキレバーを解除します。

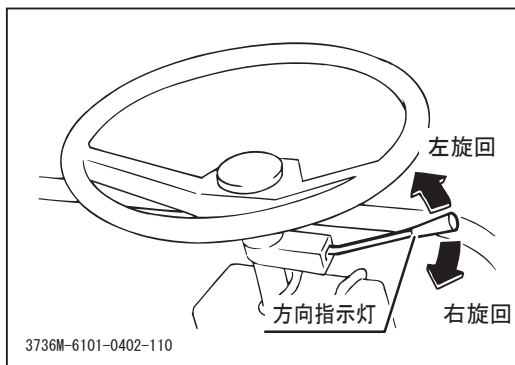


5. アクセルペダルを軽く踏み込み、エンジン回転数を上げておきます。
6. クラッチペダルを徐々に上げ（半クラッチ）、車体をゆっくり発進させます。



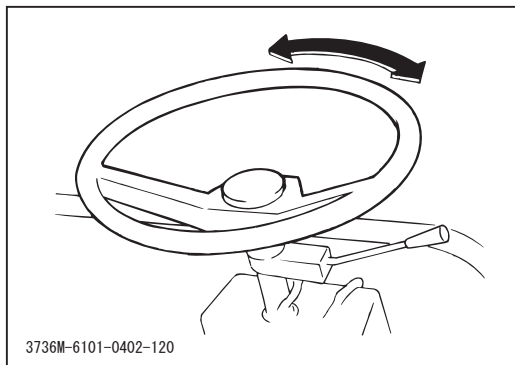
(変速する場合)

7. 車体を停止させた後、前ページ1～3の操作を行います。（車体の停止のしかたについては、「停止のしかた」を参照してください。
☞18ページ）



(旋回する場合)

8. 方向指示灯/ホーンコンビネーションスイッチを旋回したい側（図示参照）に動かします。（パイロットランプが点滅します。）

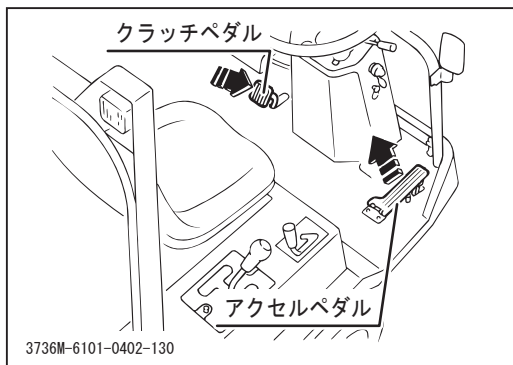


9. ハンドルを左側または右側に切り、旋回します。

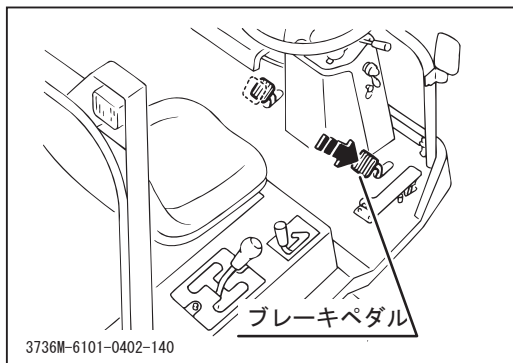
停止のしかた

⚠ 注意

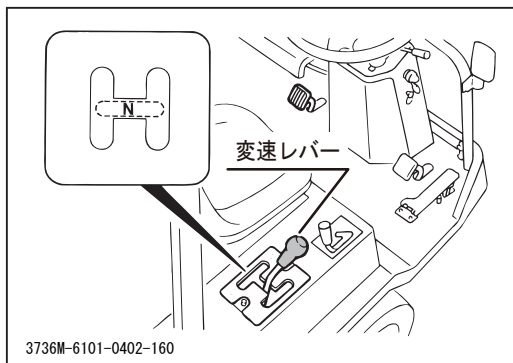
- ・キースイッチを「入（ON）」のままにしておくと、バッテリーから各回路に電流が流れ続け、バッテリーの上がりの原因になります。



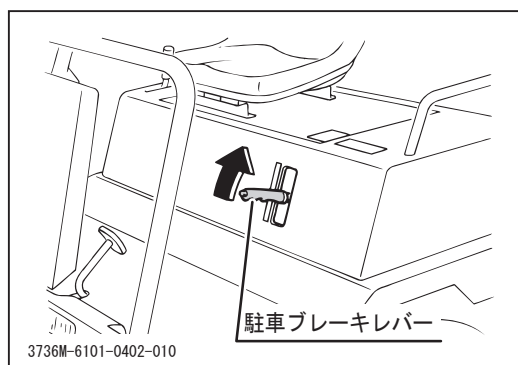
1. アクセルペダルから足を離し、エンジンの回転数を落とし、車速を減速させます。
2. クラッチペダルをいっぱい踏み込みます。



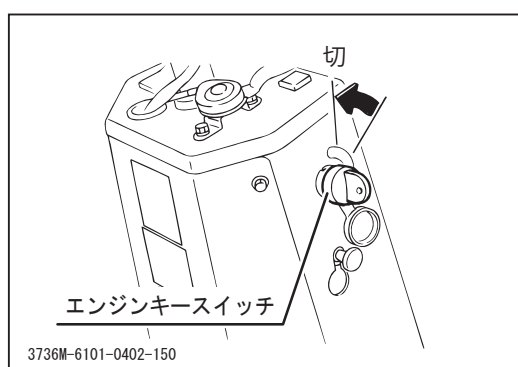
3. ブレーキペダルを徐々に踏み込みます。



4. 車体が完全に停止したら、変速レバーを「N（ニュートラル）」の位置にします。



5. 駐車ブレーキを確実にかけます。
6. クラッチペダルから足を離します。
7. ブレーキペダルから足を離します。



8. エンジンキースイッチを「切」の位置に回し、キーを抜き取ります。
9. フューエルコックを閉じます。

作業のしかた

ダンプ操作

⚠ 危険

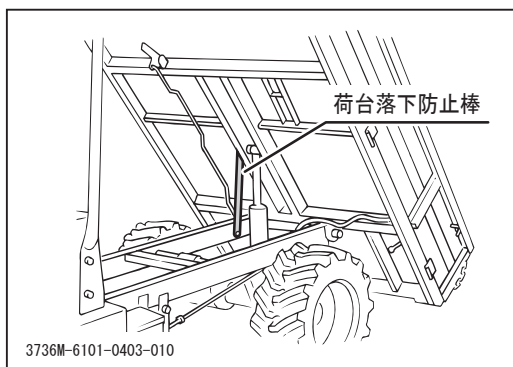
- ・ 荷台を上昇したまま荷台下等の点検を行なう場合は、危険防止のため、本体に備え付けの荷台落下防止棒にて荷台を確実に支えてください。
- ・ ダンプ操作時は周囲の安全確認を必ず行ってください。

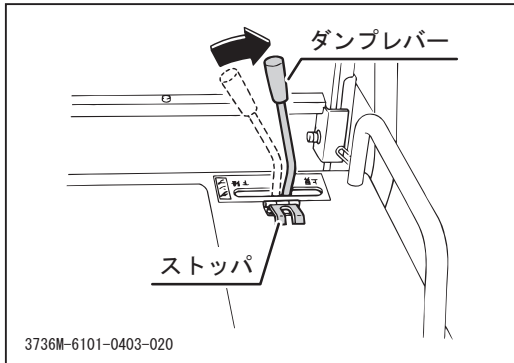
⚠ 警告

- ・ 急傾斜地でのダンプ操作は、車体が不安定になり、非常に危険ですので、お避けください。やむを得ず坂道でのダンプ操作を行なう場合は、走行部にりん木等を敷き、車体を水平にしてご使用ください。

⚠ 注意

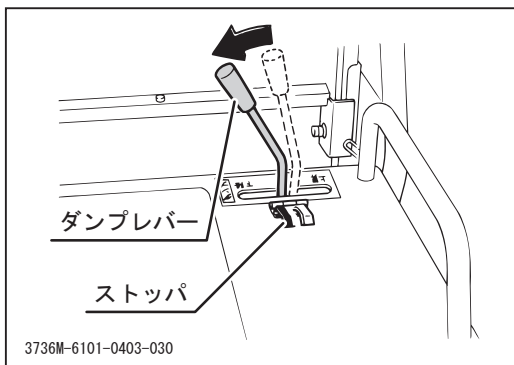
- ・ 荷物を積載したまま荷台を下降させる場合、車体に衝撃を与えないよう、エンジン回転数を低くして荷台をゆっくり下げてください。





荷台を上昇させる場合

1. エンジンを始動し、アクセルレバーを「高速」の位置にして、エンジン回転数を上昇させます。
2. ダンプレバーのストッパを解除します。
3. ダンプレバーを「上昇」の位置に徐々に倒します。
4. 荷台が上限まで上がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。



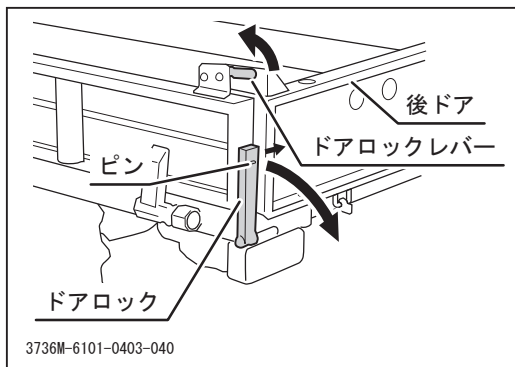
荷台を下降させる場合

1. ダンプレバーを「下降」の位置に徐々に倒します。
2. 荷台が下限まで下がるとリリース作動音（ヒュー音）がしますので、ダンプレバーをすばやく「中立」の位置に戻します。
3. ダンプレバーのストッパを取付けます。

荷台ドアの操作

⚠ 注意

- ・この運搬車(ホイールキャリア)は農地などにおける運搬作業を主目的とした自動車です。荷物を積載した状態での公道走行はできません。
- ・公道乗車時は荷台のドアを立てて走行してください。

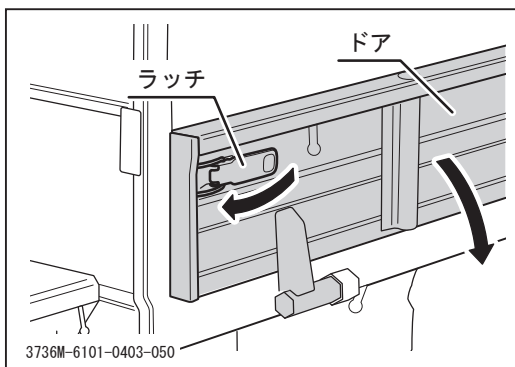


1. ドアロックレバーを解除して後ドアを開きます。

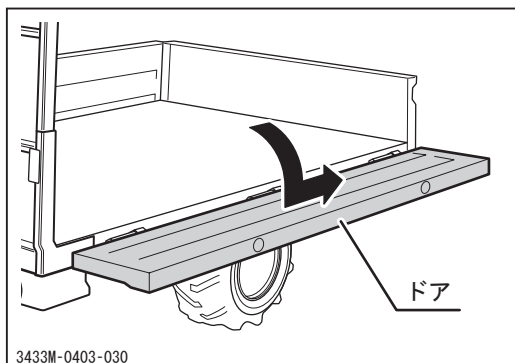
👉 アドバイス

- ・後ドアは水平位置で固定することは出来ません。

2. ピンを右に押ししてドアロックを解除します。



3. ラッチを解除しドアを開きます。



4. ドアが水平位置まで倒れたら、後ろにスライドし固定します。

👉 アドバイス

- ・ドアを水平位置にしたときは、六角パイプ下側のボルトで固定します。

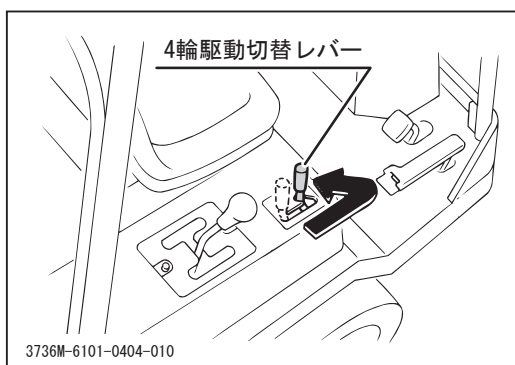
2WD・4WD切替操作

警告

- ・急な下り坂では、AWDが(4輪駆動切替レバーを「入」)を使用してください。
2WDではブレーキをかけたとき、後輪が滑り、事故につながるおそれがあります。

注意

- ・ぬかるみなどで後輪がスリップする場合は、4輪駆動切替レバーを操作して車輪のスリップを回避します。なお通常走行時は、なるべく4輪駆動切替レバーを「切」の状態にして走行してください。
- ・下記の状況下では4WDを必要に応じて選択してください。
濡れて滑りやすい路面、積雪時、凍結路
山道、急坂路、湿った砂地



1. レバーを「入」の位置にすると、4輪駆動の状態になります。
2. レバーを「切」の位置にすると、2輪駆動の状態になります。

定期点検表

 注 意

・点検や整備を怠ると事故の原因となります。本製品の正常な機能を維持するために下表を参考に定期点検を行ってください。

- ・始業点検は毎日、月次点検は1ヶ月に1回、年次点検は1年に1回行ってください。
- ・下記の点検内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない点検内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

項 目	点 検 内 容	点検時期			備 考	
		始業	月次	年次		
原 本 動 機	始 動 性	エンジンの始動が容易で異音がないこと	○	○	○	
	回 転 の 状 態	アイドリング時および無負荷最高回転時の回転数が正規の回転数であり、回転が円滑に続くこと		○	○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンを加速した時にスロットルレバーの引っかかり、エンジン停止、ノッキングが起こらないこと	○	○	○	
	排 気 の 状 態	エンジンを十分に暖気した状態で、アイドリング時から高速回転時まで排気色および排気音が正常であること	○	○	○	
		排気管、マフラ等からの排気漏れがないこと		○	○	
	エ ア ク リ ー ナ	ケースの亀裂、変形および接続管の緩みがないこと		○	○	
		エレメントに著しい汚れまたは損傷がないこと		○	○	清掃 / 交換 : 37 ページ
締 付 け	シリンダヘッドおよびマニホールドの締付け部のボルトおよびナットに緩みがないこと ※これらの部分からガス漏れや水漏れが認められない場合はこの検査を省略してもよい			○		
弁 隙 間	弁隙間が正規であること ※弁隙間の異常による異音がなく、エンジン回転に異常がなければこの検査を省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください	

項目		点検内容	点検時期			備考
			始業	月次	年次	
原 動 機	本体	圧縮圧力			○	販売店に点検を依頼してください
		エンジンマウント	エンジンベースに亀裂または変形がないこと	○	○	○
	取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	○	
	防振ゴムの損傷または劣化がないこと		○	○	○	
	潤滑装置	油量が適正で著しい汚れがないこと	○	○	○	点検/交換：☞28ページ
		ヘッドカバー、オイルパン、パイプ等から著しい油漏れがないこと	○	○	○	
	燃料装置	燃料タンク、ホース、パイプ等から燃料漏れがないこと	○	○	○	
		燃料ホースに損傷または劣化がないこと	○	○	○	
		フューエルフィルタに著しい汚れまたは詰まりがないこと		○	○	清掃：☞38ページ
	電気装置	点火プラグ	電極に消耗がなく、カーボンの堆積がないこと			○
バッテリー		電解液の量が規定範囲内にあること		○	○	点検/補給：☞36ページ
		端子部に緩みまたは著しい腐食がないこと		○	○	
配線		接続部に緩みがないこと		○	○	
	配線に損傷がないこと		○	○		
動力伝達装置	走行クラッチ	アイドリング状態でクラッチを切った時に異音がなく、クラッチが完全に切れること	○	○	○	調整：☞39ページ
		クラッチを徐々に接続した時に滑りがなく、接続が円滑であること	○	○	○	調整：☞39ページ
		クラッチペダルの遊びが適正であること		○	○	点検：☞39ページ
	Vベルト	亀裂、損傷がなく油脂類の付着がないこと		○	○	点検：☞40ページ
Vベルトの張りが適正なこと			○	○	点検/調整：☞40ページ	

項 目	点 検 内 容	点 検 時 期			備 考	
		始 業	月 次	年 次		
動力伝達装置	トランスミッション (ディファレンシャル含む)	走行時にギヤ抜け、異音または異常発熱がないこと	○	○	○	
		ケース内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検 / 交換：☞ 32 ページ
		ケース周辺からの油漏れがないこと		○	○	
	プロペラシャフト	クラッチをつないだ時に異音または異常振動がないこと		○	○	
		亀裂、損傷または変形がないこと		○	○	
タイヤホイール		タイヤの空気圧および溝の深さが規定値内であること	○	○	○	点検 / 交換：☞ 44 ページ
		タイヤおよびホイールに亀裂、損傷または偏摩耗がないこと	○	○	○	
		タイヤの溝に金属片、石等の異物のかみ込みがないこと	○	○	○	
		ホイールボルトおよびハブナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
		ホイールベアリング部にガタ、異音または異常発熱がないこと		○	○	
制動装置	ブレーキ	ブレーキの効き具合が適正であること	○	○	○	調整：☞ 43 ページ
		ブレーキペダルの遊びが適正であること		○	○	調整：☞ 43 ページ
	駐車ブレーキ	駐車ブレーキ作動時に 1/5 勾配で停止状態を保持できること	○	○	○	調整：☞ 44 ページ
	ロッドリンクワイヤ類	ロッド、リンクおよびワイヤ類に変形または損傷がないこと	○	○	○	
	連結部に緩み、ガタまたはワリピンの欠損がないこと	○	○	○		
油圧装置		パッケージ内の油量が適正で著しい汚れがないこと		○	○	点検/補給：☞ 34 ページ
		油圧パッケージ本体からの油漏れがないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
		ブリーザに目詰まりのないこと			○	
	パワーパッケージ	ホースとの継手部、シール部等からの油漏れがないこと		○	○	
		油圧パッケージ作動時に異常振動、異音または異常発熱がないこと		○	○	
		パッケージに負荷をかけて、負荷時の吐出量および吐出圧力が基準値内であること * 前項の検査で異常が無ければこの検査は省略してもよい			○	販売店に点検を依頼してください

項目	点検内容	点検時期			備考	
		始業	月次	年次		
車 体 ・ 安 全 装 置 等	車 お よ び 車 体	枠 亀裂、変形または腐食がないこと		○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと		○	○	
	荷 台	ドアの開閉が円滑に行えること	○	○	○	
		亀裂、変形または摩耗がないこと	○	○	○	
		取付ボルトおよびナットに緩みまたは脱落がないこと	○	○	○	
	荷台落下防止棒	荷台落下防止棒に変形がないこと		○	○	
	マ ー ク	注意、指示銘板等に汚れまたは損傷がないこと	○	○	○	
	前 照 灯	正常に点灯すること	○	○	○	
		レンズに破損または水等の浸入がないこと		○	○	
	方 向 指 示 灯	方向指示灯およびパイロットランプが正常に点滅すること	○	○	○	
レンズに破損または水等の浸入がないこと			○	○		
ホ ー ン	正常に鳴ること	○	○	○		
バックミラー	汚れ、破損、脱落がないこと	○	○	○		

給油・給水一覧表

項 目	補 給 (交 換) 時 期	推 奨 品	容 量
燃 料	随時	ガソリン	6.0ℓ
エ ン ジ ン オ イ ル	補給 毎日点検し不足時に補給 交換 初回：20 時間 2 回目以降：50 時間毎	API 分類 SD 級以上 SAE 分類 10W-30	1.0ℓ
ト ラ ン ス ミ ッ シ ョ ン オ イ ル	交換 初回：50 時間 2 回目以降：500 時間毎	ギヤオイル API 分類 GL4 または 5 SAE 分類 #80	2.4ℓ
デ フ オ イ ル	交換 初回：50 時間 2 回目以降：500 時間毎	ギヤオイル API 分類 GL4 または 5 SAE 分類 #80	0.7ℓ
デ フ ナ ッ ク ル			0.1ℓ
パ ワ ー パ ッ ケ ー ジ オ イ ル	補給 100 時間毎に点検し 不足時に補給	タービン油 ISO：VG32 JIS：#90	1.6ℓ
バ ッ テ リ 液	毎月点検し不足時に補給	蒸留水	-

給脂・注油一覧表

！ 注 意

・給脂がおろそかになると、焼き付きや錆び付きの原因となり、作動が円滑に行われなくなるおそれがありますので、定期的に給脂を行ってください。

アドバイス

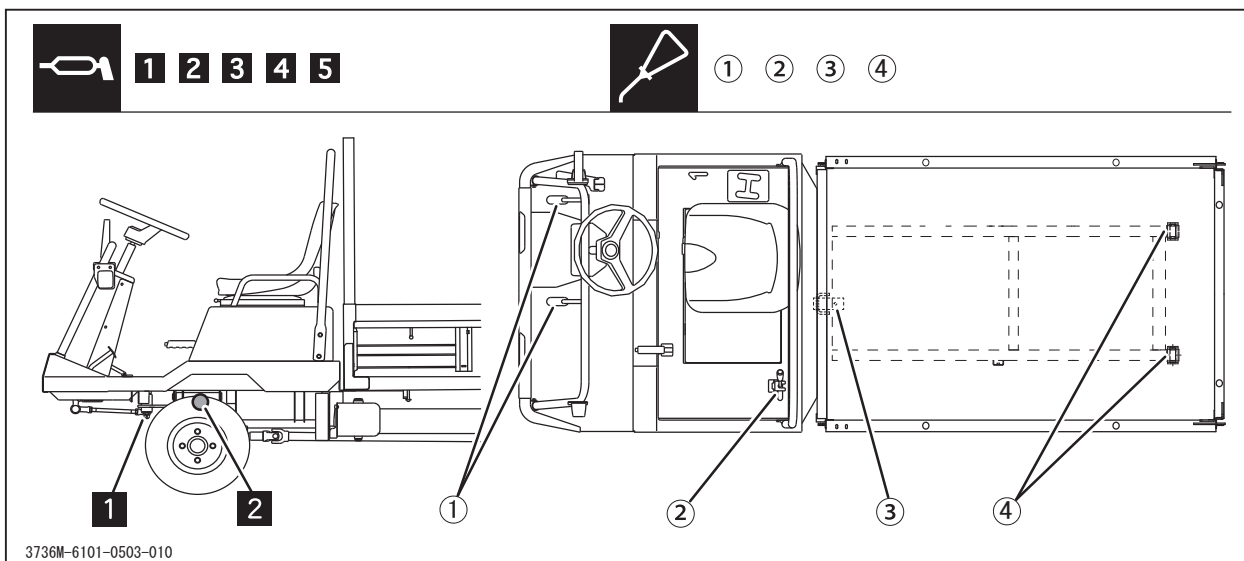
- ・手動式のグリースポンプを使用の場合は5～6回突いてください。途中でポンプハンドルが重くなった場合は、ただちに給脂を終了してください。
- ・エア式のグリースポンプを使用の場合は2～3秒間給脂してください。

給脂・注油一覧表

給脂箇所は下の表とイラストにあるとおりです。

給 脂 箇 所	補 給 時 期	推 奨 品
1 中 間 ア ー ム	半年毎	シャーシグリース
2 前 車 軸 中 央	半年毎	シャーシグリース
① ペ ダ ル 取 付 部	半年毎	ギヤオイル API分類 GL4または5 SAE分類 #80
② ダンプレバー取付部の注油	半年毎	
③ テンションアーム取付注油	半年毎	
④ 荷 台 取 付 部	半年毎	

購入後半年は給脂不要です。



消耗部品（交換部品）一覧表

 注意

- ・弊社製品のメンテナンスや部品交換を実施されるときは、必ず当社純正部品をご使用ください。純正部品以外をご使用になりますと、保証が適用されない場合もありますのでご注意ください。

項 目	部品番号	交 換 イ ン タ ー バ ル	個 数
エンジン			
クリーナエレメント	KA40088AA	不具合があれば交換	1
パッキング	KK15003AE014	不具合があれば交換	1
点火プラグ (BPR5ES)	FR46903A	不具合があれば交換	1
ワイヤ (エンジンコントロール)	37120117000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (エンジンコントロールペダル)	53040209000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (チョーク)	37120121000	不具合があれば交換	1
走行装置			
タイヤ (前輪)	37122302000	不具合があれば交換	2
タイヤ (後輪)	34152313000	不具合があれば交換	2
チューブ (後輪)	37052204000	不具合があれば交換	2
Vベルト (SB36 レッド)	08521300036	不具合があれば交換	2
ブレーキシューセット (センター)	73014007000	不具合があれば交換	1
ブレーキシューセット (ホイール)	72014104000	不具合があれば交換	2
ワイヤ (駐車ブレーキレバー)	37053611000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (クラッチペダル)	34123013000	不具合があれば交換	1
ワイヤ (ブレーキペダル)	52193107000	不具合があれば交換	1
油圧系統			
Vベルト (SB339) レッド	08521300039	不具合があれば交換	1
電装品			
バッテリー (40B19R)	37053901000	不具合があれば交換	1
ヒューズ (メイン: 10A)	-	不具合があれば交換	1
ヒューズ (灯火類: 10A)	-	不具合があれば交換	1
バルブ (前照灯: 12V23W)	09808122304	不具合があれば交換	1
バルブ (ターンシグナルランプ: 12V21/5W)	09808122104	不具合があれば交換	2
バルブ (方向指示器: 12V21W)	09808122104	不具合があれば交換	4
ランプ (パイロットランプ)	37090308100	不具合があれば交換	1

 アドバイス

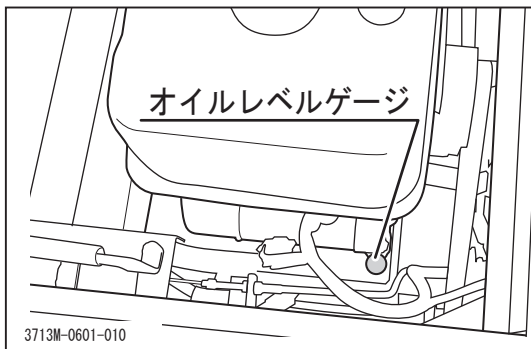
- ・ホースなどのゴム製品は使わなくても劣化する消耗品ですので、2年毎に新品と交換してください。

給油

エンジンオイル

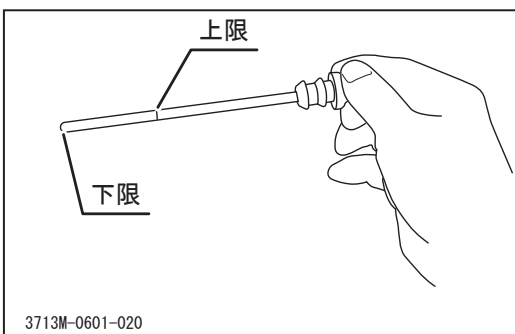
！ 注 意

- ・ 給油がおろそかになると、回転が円滑に行われなくなり、故障の原因となりエンジンの寿命を短くしますので、常に指定の良質オイルを過不足なく給油してください。
- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。



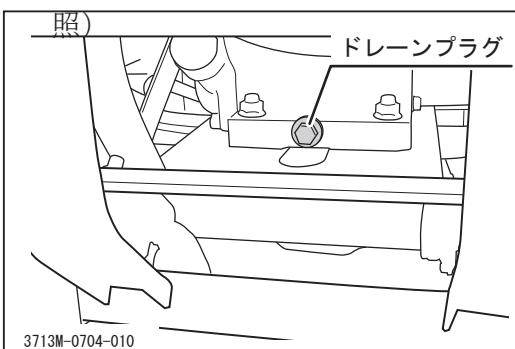
点検/補給

1. オイルレベルゲージを取外します。
2. エンジンオイル量および汚れを目視点検し、規定量でない場合および汚れがひどい場合は、エンジンオイルを補給または交換します。
 使用オイル：☞28ページ
 エンジンオイル量：
 オイルレベルゲージの上の刻み線
 (上限以上は入れないでください。)



3. オイルレベルゲージを取付けます。

(上記「点検／補給」を参



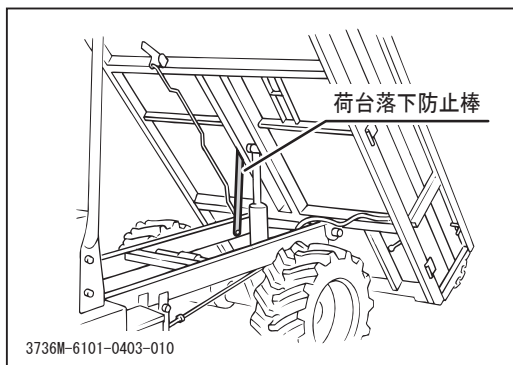
交換

1. オイルを抜取る適当な容器を用意します。
2. オイルドレーンプラグを取外し、クランクケース内のオイルを排出します。
3. オイルドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。(上記「点検／補給」を参照)

トランスミッションオイル

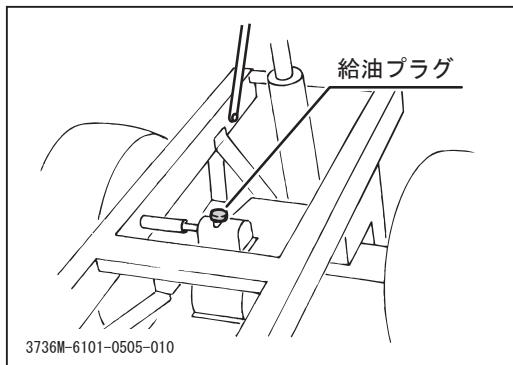
 注意

- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油については適切な処理をしてください。

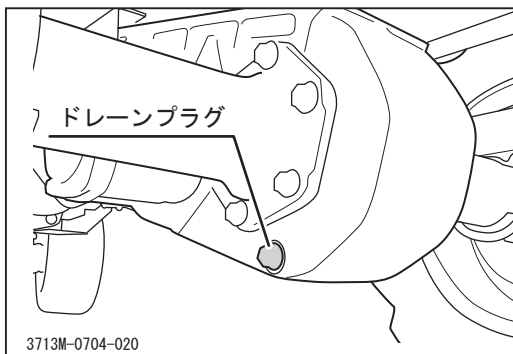


点検/補給

1. 荷台を上昇します。(☞20ページ)



2. 給油プラグを取外します。
3. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。
使用オイル：☞28ページ
4. 給油プラグを取付けます。
5. 荷台を下降します。



交換

1. オイルを抜取る適切な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

 アドバイス

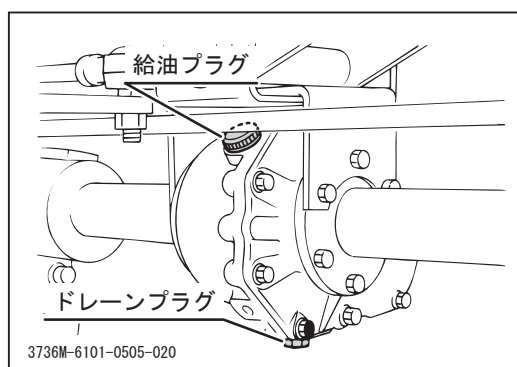
- ・ 給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。(上記「点検/補給」を参照)

デフオイル

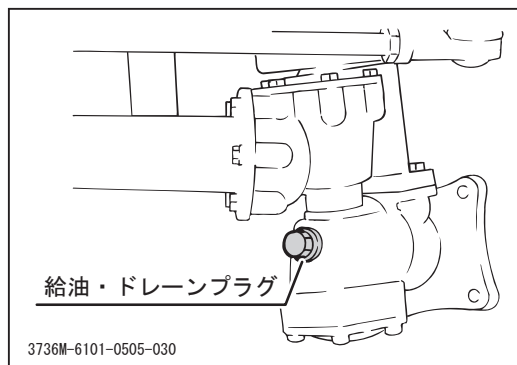
⚠ 注意

- ・ オイル高温時には火傷のおそれがあります。
- ・ 廃油については適切な処理をしてください。



点検/補給

1. 給油プラグを取外します。
2. オイル量および汚れについて目視点検し、オイルが不足している場合および汚れがひどい場合は、補給または交換します。
使用オイル：☞28ページ
3. 給油プラグを取付けます。



交換

1. オイルを抜取る適切な容器を用意します。
2. ドレーンプラグを取外し、オイルを抜取ります。

👉 アドバイス

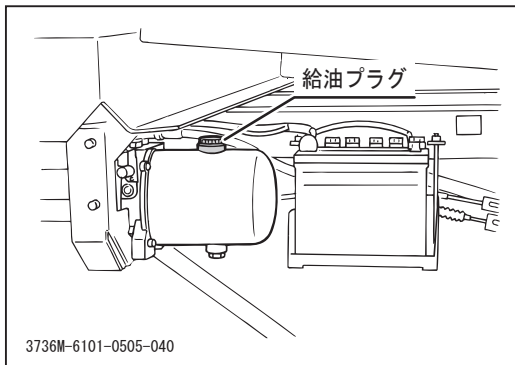
- ・ 給油プラグを取外すと、オイルが抜取りやすくなります。

3. ドレーンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、指定のオイルを注入します。（上記「点検／補給」を参照）

パワーパッケージオイル(油圧ダンブ用オイル)

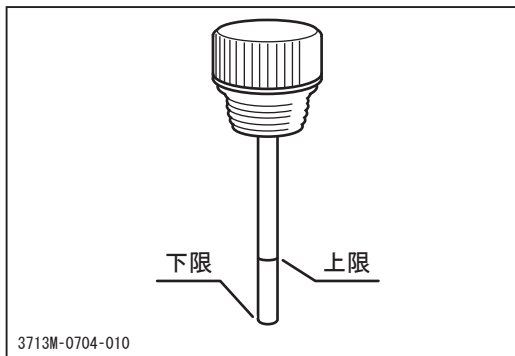
⚠ 注意

- ・ オイルが減るとホースおよびシリンダ内に空気が入り、ダンブの上昇が悪くなりますので、100時間毎にオイルの点検を行ってください。
- ・ エンジンを始動し、荷台を上昇すると、最初はエアが入っていますのでノックしますが、2～3回繰り返しますと良くなります。
- ・ 廃油は適切な処理をしてください。

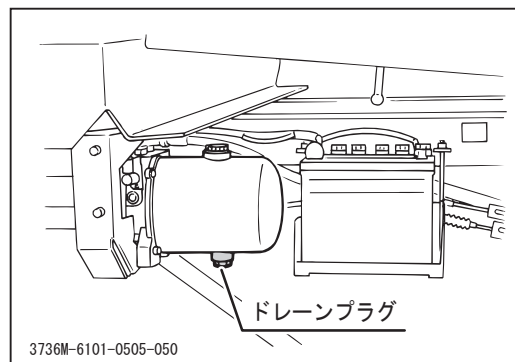


点検/補給

1. 給油プラグを取外します。



2. オイル量を目視点検し、レベルゲージの「下限」より少ない場合はオイルを補給します。
3. オイルの汚れ、粘度を目視点検し、汚れがひどい場合、粘度が不良の場合は交換します。
使用オイル：☞28ページ
4. 給油プラグを取付けます。
5. エンジンを始動し、オイルを循環させます。



交換

1. オイルを抜取るための適当な容器を用意します。
2. ドレンプラグを取外します。
3. ドレンプラグを取付けます。
4. 給油プラグを開け、オイルを注入します。
(上記「点検/補給」を参照)

電装品

 警告

- ・点検および作業時は必ずエンジンを停止し、キーを抜き取ってください。
- ・ぬれた手で作業を行わないでください。感電のおそれがあります。

バッテリー液の点検・補給・充電

 警告

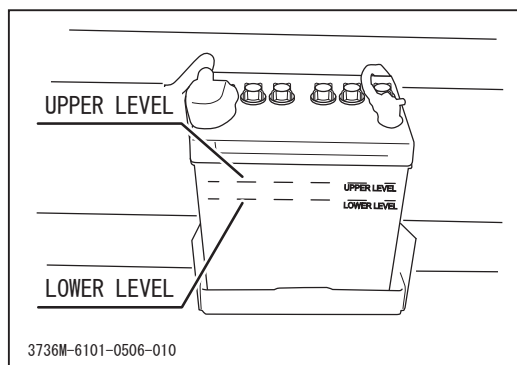
- ・バッテリー液量が「LOWER LEVEL」以下になったまま使用または充電をしないでください。バッテリーの寿命を著しく縮めます。また、バッテリーが爆発するおそれがあります。
- ・バッテリー液（希硫酸）が衣服や皮膚に付着した場合は、すぐに多量の水で洗い流してください。目に入った場合にはすぐに多量の水で洗い流し、医師の診断を受けてください。
- ・バッテリーに火気を近づけないでください。
- ・バッテリーの電極に触れないでください。感電のおそれがあります。
- ・バッテリーの充電は車両から取り外して行ってください。
- ・バッテリーの清掃は湿った布で行ってください。乾いた布で清掃すると、静電気で引火爆発するおそれがあります。

 注意

- ・バッテリー液を補給する時は、バッテリー液量が「UPPER LEVEL」以上になるまで補給をしないでください。バッテリー液がもれて塗装面が傷ついたり、部品が腐食したりするおそれがあります。
- ・バッテリーを充電するときは、使用する充電器の取扱説明書の指示に従ってください。

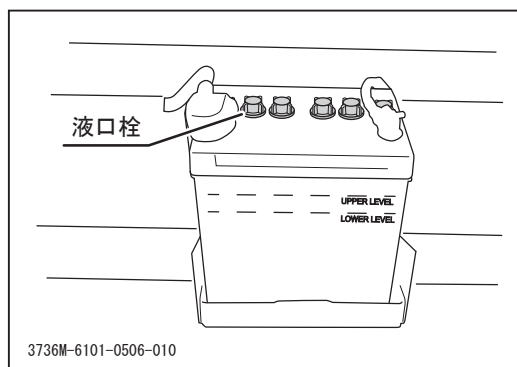
! 注意

- ・ バッテリー端子を取り外すときは（－）端子から取り外し、取り付けるときは（＋）端子から取り付けてください。（＋）端子と車体の間に工具等が接触するとショートします。
- ・ バッテリー端子をバッテリーに取り付けるときには（＋）と（－）を間違えないでください。また、端子はしっかりと取り付け、配線がまわりに接触しないようにしてください。



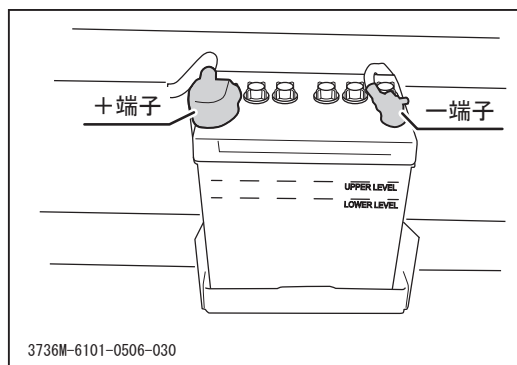
点検

1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリー液量が「UPPER LEVEL」（以下U.L）と「LOWER LEVEL」（以下L.L）の間にあることを確認します。
3. バッテリー液量が「U.L」と「L.L」の間より少ない場合は補給します。



補給

1. 液口栓を取り外します。
2. 蒸留水を「U.L」まで補給してください。
3. 液口栓を取り付けます。



充電

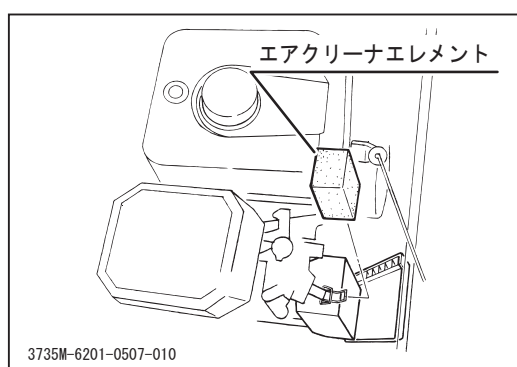
1. 車体を水平な場所に停止させます。
2. バッテリーの（－）端子を取り外します。
3. バッテリーの（＋）端子を取り外します。
4. バッテリーを取り外します。
5. 充電器の取扱説明書に従い、バッテリーを充電します。
6. 充電が終了したらバッテリーを車両に取り付けます。

清掃

エアクリーナエレメント

⚠ 注意

- ・ エアクリーナエレメントの汚れがひどくなると、エンジンの始動不良、出力不足、エンジンの寿命低下を引起こすため、定期的（50時間運転毎）に清掃するよう心掛けてください。



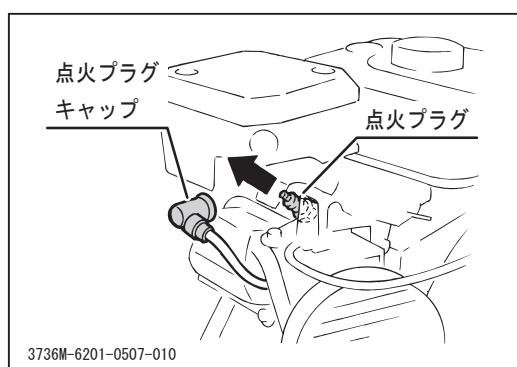
清掃/交換

1. エンジンカバーを開けます。（☞12ページ）
2. エアクリーナカバーを取外します。
3. エアクリーナエレメントを取外します。
4. 付属の「エンジン取扱説明書」を参照して、エアクリーナエレメントを清掃します。
5. エンジンカバーを閉めます。

点火プラグ

⚠ 注意

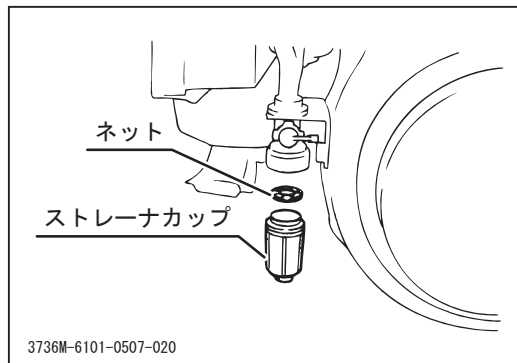
- ・ 点火プラグキャップを取外すときは、コードを引っ張らず、必ずキャップを持って取外してください。



点検

1. エンジンカバーを開けます。（☞12ページ）
2. 付属のエンジン取扱説明書の指示に従って、点火プラグの点検・清掃・交換を行います。
3. エンジンカバーを閉めます。

フューエルコック（フューエルフィルタ）

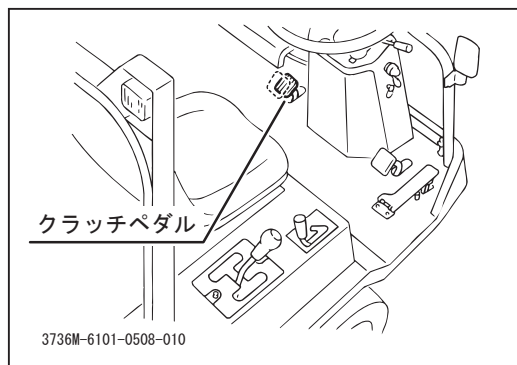


清掃

1. フューエルコックが閉まっていることを確認します。
2. ストレーナカップを取外します。
3. ストレーナカップの底にたまっている沈殿物（ゴミや水等）を除去します。
4. ネットを新しいガソリンで洗浄します。
5. ネットおよびストレーナカップを取付けます。

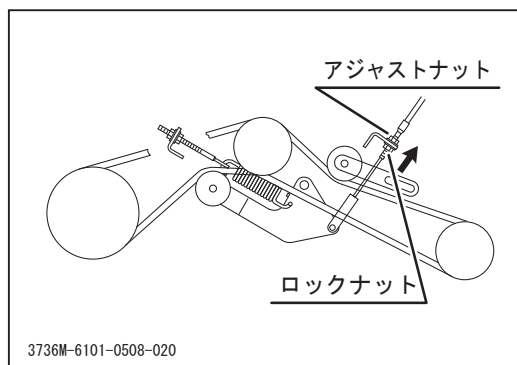
調整

クラッチ



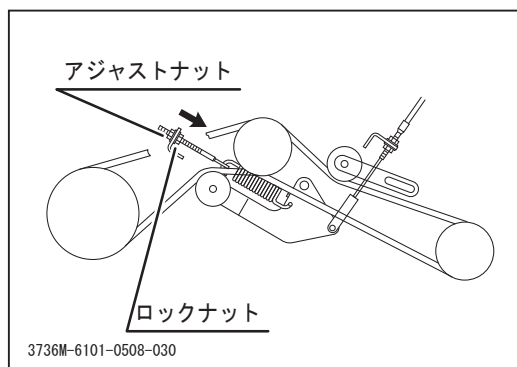
クラッチペダルの遊び

クラッチペダルは、クラッチ「入」(踏まない)の状態です。ペダルの先端での遊びが約10mm程度にセットされていますが、長期の使用で遊びが少なくなってきたら、クラッチワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットで調整してください。



クラッチペダルの遊びが少ない場合

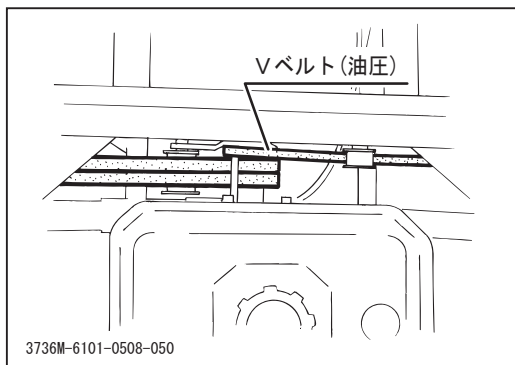
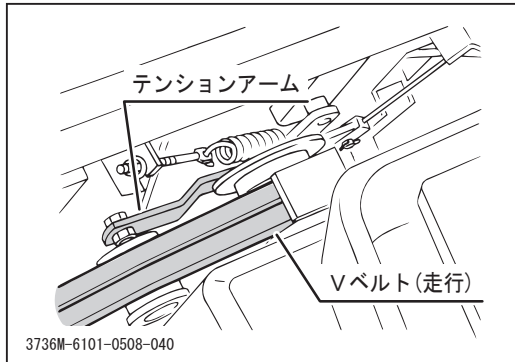
アジャストナットを矢印の方向へ



Vベルトの滑り

ロックナットを緩めた後、アジャストナットを矢印の方向へ締めて、テンションアームにてベルトを張ってください。

Vベルト



点検

1. Vベルトに損傷がないか目視点検します。損傷がある場合は交換します。
2. Vベルトの張り具合を手で押さえて点検します。緩みがある場合は調整します。

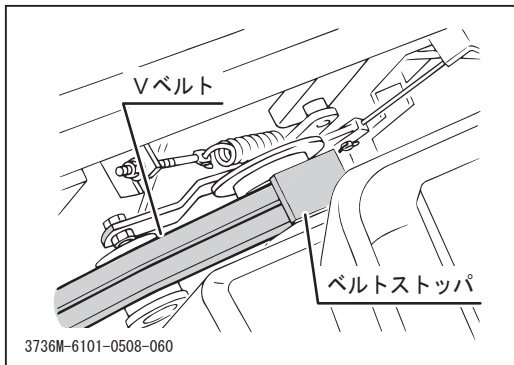
調整/交換

販売店へ依頼してください。

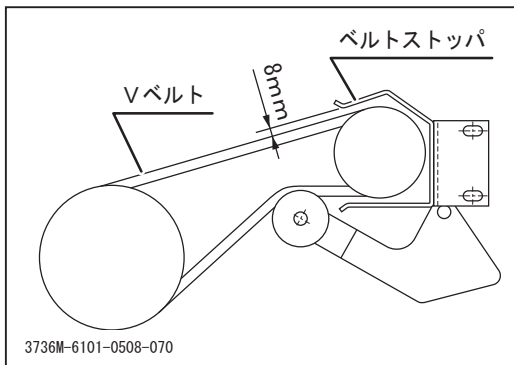
ベルトストッパー

! 注 意

- ・ クラッチが完全に切れない原因にベルトストッパーの調整不良があります。ベルト交換等によりベルトストッパーを外した場合、以下のように調整してください。
- ・ 調整はエンジン停止の状態で行ってください。



1. エンジンカバーを開けます。(☞12ページ)

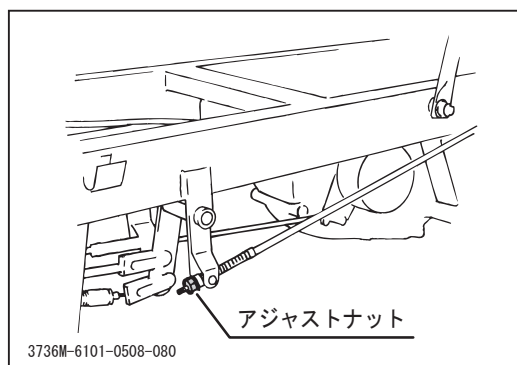


2. クラッチペダルを踏まない(クラッチ入)状態で、Vベルトとベルトストッパーの間隔を均一(8mm程度)にセットします。

ホイールブレーキ

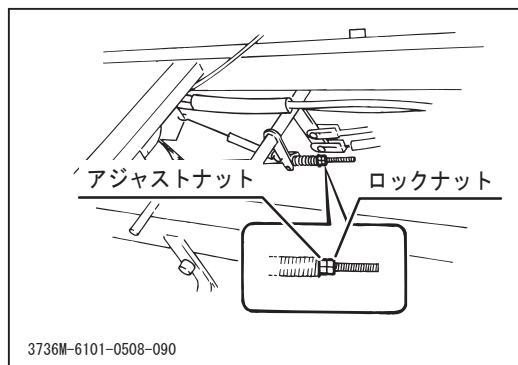
⚠ 注意

- ・少しでも甘くなったり、片効きするような場合は即座に下記の調整を行い、常に安全を心掛けるようにしてください。
- ・調整は左右のホイールブレーキで同時に行い、片効きが発生しないようにしてください。
- ・ホイールブレーキの調整は、空車および変速レバー「中立」、駐車ブレーキレバー「解除」の状態、ブレーキペダル「踏み込まない」状態で手で押して車体が動く範囲で行い、アジャストナットを締めすぎないように注意してください。



1. ホイールブレーキのアジャストナットを締め付け方向に回して調整します。

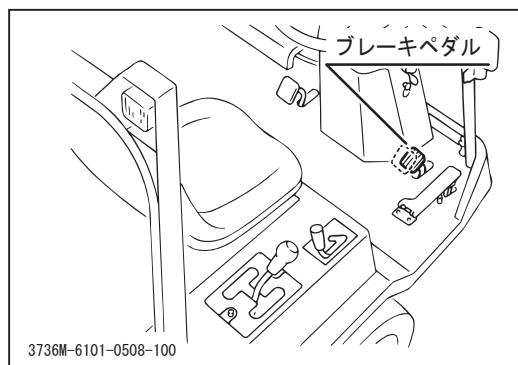
センターブレーキ



1. 駐車ブレーキバーを引きます。
2. ロックナットを緩めます。
3. アジャストナットを回して、スプリングが 5 mm程度縮むように調整します。
4. 調整後、ロックナットを締め付けます。

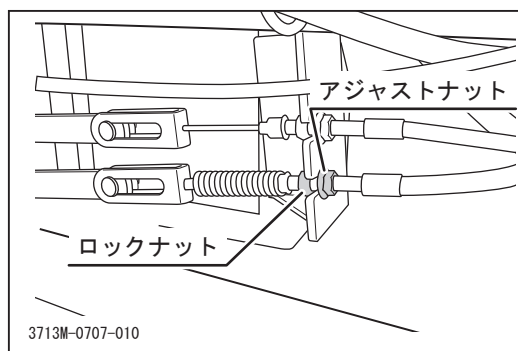
👉 アドバイス

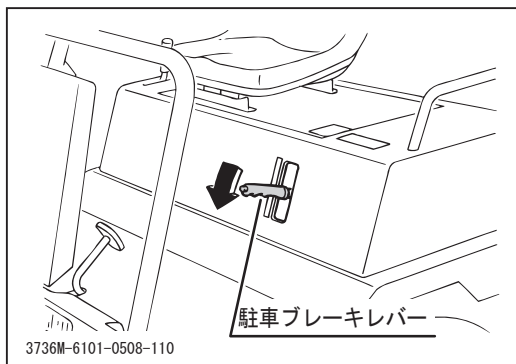
- ・センターブレーキの調整は、ホイールブレーキを調整した後に行ってください。



ブレーキペダルの遊び

ホイールブレーキの調整後、ペダルを軽く押したとき遊びが先端で0～10mmになるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。



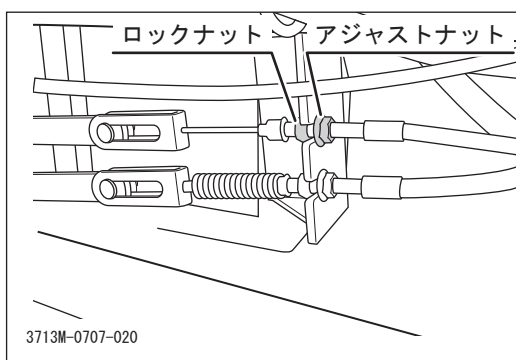


駐車ブレーキの調整

駐車ブレーキレバーを引いて、駐車ブレーキレバーのロックがおおよそ5～7ノッチで止まるよう、ブレーキワイヤのロックナットを緩めた後、アジャストナットにて調整してください。

👉 アドバイス

- ・ブレーキを調整後に、駐車ブレーキを解除して、変速を「N」の状態、車体を押して動くことを確認してください。



タイヤの空気圧

1. 前輪および後輪のタイヤの空気圧を点検し、標準値でない場合は調整します。

	タイヤ	空気圧MPa(kgf/cm ²)
前輪	16×6.50-8 (4PR)	0.19 (1.9)
後輪	19×8.00-10 (4PR)	0.24 (2.4)

使用後のお手入れ

注 意

- ・ エンジンや操作盤および各種給油口の水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・ 付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・ 凍結して運転不能となった場合は無理に動かさないでください。

通常使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

寒冷期使用後のお手入れ

1. 使用後は車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
2. コンクリートか硬い乾燥した地面に駐車します。
3. 屋外に放置する場合は、エンジンが十分冷えてから防水カバー等をかけて保管します。

長期保管のしかた

 警告

- ・火気のある場所に格納しないでください。火災のおそれがあります。

 注意

- ・エンジンや操作盤および各種給油口の水洗いはしないでください。水の浸入による故障や錆び付きのおそれがあります。
- ・付着物は凍結して故障の原因となりますので、きれいに取り除いてください。
- ・湿気やほこりの多い場所に格納しないでください。
- ・格納時にはエンジンが冷えてから、防水シートを本機にかけてください。
- ・バッテリー線を外す場合はマイナス（－）を先にプラス（＋）を後で外し、接続する場合はプラス（＋）を先にマイナス（－）を後で接続します。

1. 車両を停車します。
2. 車両に付着した草や泥などの異物を取り除きます。
3. 外面を油のしみた布で清掃し、給脂箇所に給脂します。
4. エンジンオイルを交換します。(☞31ページ)
5. フューエルコックを「閉」の位置にして燃料の供給を停止します。
6. エアクリーナエレメントを清掃します。(☞37ページ)
7. 燃料タンク内の燃料を抜き取ります。
8. 車両からバッテリーを取り外し、バッテリー液の点検・補給を行います。(☞35ページ)
9. 駐車ブレーキレバーを引かずに、輪止めをします。
10. エンジンキーを抜きます。

 アドバイス

- ・バッテリーは使用しなくても放電してしまいます。約6ヶ月は蓄電していますが、放電してしまわないうちに充電するとバッテリーを長持ちさせることができます。
- ・気化器内へ燃料を入れたまま長期間放置すると燃料が劣化し、始動不良および回転変動が生じますので、長期保管する場合は気化器内および燃料タンク内の燃料を抜き取ってください。また長期間放置した燃料はなるべく使用しないでください。
- ・エンジンの長期保管の詳細については付属の「エンジン取扱説明書」を参照してください。

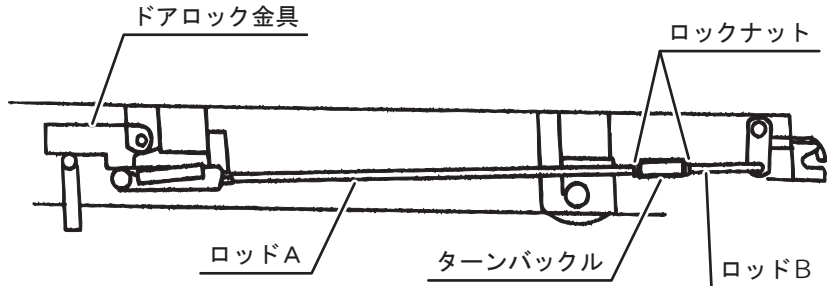
不具合診断表

- ・不具合と考えられる現象が起きた場合は本製品の使用を停止し、下記の不具合診断表を参照して適切な処置をとってください。不具合診断表に記載されていない不具合が発生した場合や、適切な処置をとっても不具合が解消されない場合は、販売店（当社センター）へ連絡してください。
- ・下記の処置内容の中には、専門的な知識を必要とするものや所定の工具や計器が必要なものが含まれています。ユーザー自身で実施できない処置内容については販売店（当社センター）へ依頼してください。

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エンジン 関 連	エンジンがかからない またはかかりにくい	燃料切れ	→補給する	12ページ
		燃料の吸い込みすぎ	→時間をおいて始動する	
		バッテリーの容量不足 (セルモータの起動不良)	→バッテリー液を補給する →バッテリーを充電する →バッテリーを交換する	35ページ
		フューズ切れ	→交換する(販売店へお問い合わせください)	
		電気配線の接触不良 または断線	→修理する(販売店へお問い合わせください)	
		エンジンオイルの不足 または品質不良	→補給または交換する	28ページ
		点火プラグの汚れ等による着火不良	→清掃または交換する	37ページ
		クラッチペダルを踏んで ない	→クラッチペダルを踏む	
		その他(上記以外)	→「始動のしかた」の手順に従って再始動を試み、始動不可能の場合は販売店へお問い合わせください	
	すぐにエンストする	燃料切れ	→補給する	12ページ
		フューエルコックが開いていない	→フューエルコックを開く	38ページ
		チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	
	エンジンが突然停止した	燃料切れ	→補給する	12ページ
		エンジンオイル不足 またはオイル老化による焼き付き	→販売店へお問い合わせください	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
エ ン ジ ン 関 連	アイドリング不良(エンジン回転にムラがある)		→販売店へお問い合わせください	
	出力または加速不足	燃料不良	→交換する	
		アクセルの調整不良	→販売店へお問い合わせください	
		Vベルトの緩み	→調整する	
		過積載	→積荷を減らす	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	エンジンまたはエンジン付近から異音または振動がする		→販売店へお問い合わせください	
	エンジンオイルの消費が早い	エンジンオイルの漏れ	→点検および修理する	
	オーバーヒートする	エンジンオイルの不足	→補給する	31ページ
	燃料の消費が早い	エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		燃料系統からの燃料漏れ	→販売店へお問い合わせください	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	黒煙が多量に出る(排気状態の不良)	チョークレバーの戻し忘れ	→チョークレバーを戻す	
		エアクリーナの目詰まり	→清掃または交換する	37ページ
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	白煙または青煙が出る(排気状態の不良)	燃料不良	→交換する	
		エンジンオイルが入り過ぎている	→点検後オイル量を調整する	31ページ
		シリンダ、ピストンリングの摩耗	→販売店へお問い合わせください	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	
	アクセルレバーまたはペダルが引っかかる		→販売店へお問い合わせください	

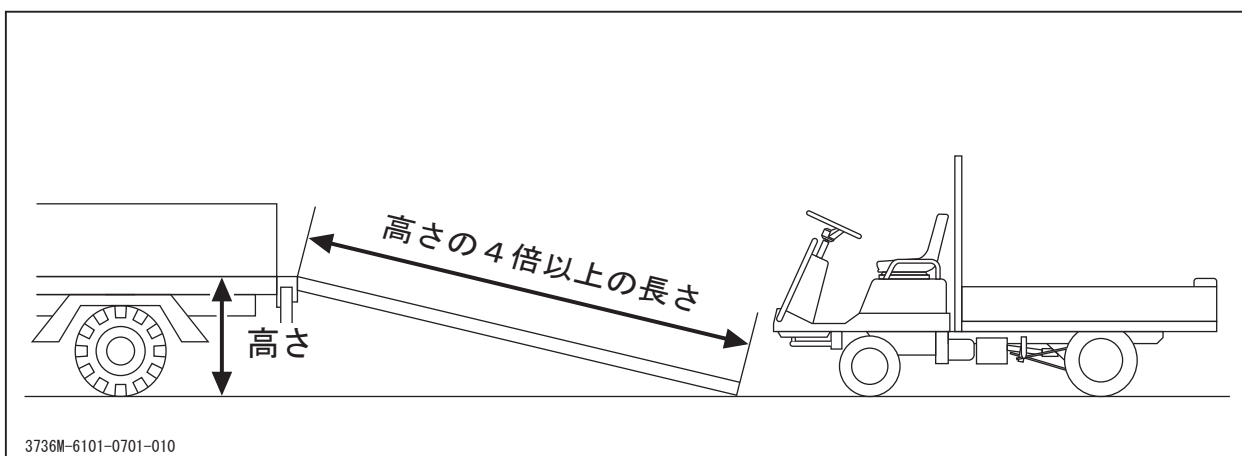
発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
動力伝達装置関連	クラッチをつないでも車体が動かない	確実に変速(シフト)していない	→確実に変速(シフト)する	
		ブレーキが効いている	→ブレーキを解除する	
		Vベルトが外れている、緩みすぎている	→Vベルトをかける、または調整する(販売店に依頼してください)	
		トランスミッションの故障	→販売店へお問い合わせください	
		その他(上記以外)	→「 運転のしかた 」の手順に従って運転を試み、走行不可能の場合は販売店へお問い合わせください	
	クラッチの切れが悪い	Vベルトのつき回り	→ベルトストップを調整する	41ページ
		Vベルトの張りすぎ	→調整する	41ページ
		クラッチワイヤが外れている	→調整する	
	Vベルトが滑る	調整不良	→調整する	41ページ
	クラッチペダルの遊びが過大または最小	調整不良	→調整する	39ページ
	トランスミッション付近から異音がする	ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	→販売店へお問い合わせください	
	変速できない	クラッチの調整不良	→調整する	39ページ
		ギヤの損傷、ベアリングの摩耗	→販売店へお問い合わせください	
	ギヤ抜けする	確実に変速(シフト)していない	→確実に変速(シフト)する	
		過積載	→積荷を減らす	
その他(上記以外)		→販売店へお問い合わせください		
制 動 装 置 関 連	ブレーキおよび駐車ブレーキの効きが悪いまたは片効きする	調整不良	→調整する	43ページ
		ブレーキドラム内に水が浸入	→何回かブレーキをかけて中の水を乾かす	
		過積載	→積荷を減らす	
		タイヤの摩耗	→タイヤを交換する	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせください	

発生箇所	不 具 合 現 象	考えられる原因	処 置	参 照
制 動 装 置 関 連	ブレーキペダルの遊びが 過大	調整不良	→調整する	43ページ
	駐車ブレーキの効き悪い	調整不良	→調整する	43ページ
荷 台 関 連	後ドアの開閉不良	ドアドアロックの 調整不良	→ターンバックルを 調整する(下記参照)	
				
ダンプ装置 関 連	ダンプ装置が作動しない または作動不良	パワーパッケージの オイル不足または劣化	→給油または交換する	34ページ
		油圧系統からのオイル 漏れ	→点検および修理	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせ ください	
車 体 関 連	車体の異常振動	タイヤ空気圧	→タイヤの空気圧を調整 する	44ページ
		タイヤ取付けボルトの 緩み	→ボルトを締める	
		その他(上記以外)	→販売店へお問い合わせ ください	
安 全 装 置 関 連	ライト、ランプの点灯 不良	配線不良	→接続する	
		球切れ	→交換する	
		ヒューズ切れ	→交換する	

トラックへの積み降ろし要領

警告

- ・トラックは平坦な場所に停め、必ず輪止めをしてください。
- ・作業中は車両およびアユミ板の周辺には人を近づけないでください。
- ・アユミ板は、十分な強度（機械質量と運転者の体重の総和に十分耐え得ること）、幅（タイヤ幅の2倍以上）、長さ（トラックの荷台床面高さの4倍以上）のあるすべり止め付きのものを使用してください。
- ・アユミ板のフックは荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけてください。
- ・前進でゆっくりと積み込んでください。
- ・アユミ板の上で旋回を行わないでください。転落のおそれがあります。
- ・輸送中に車両が動かないように荷台に確実に固定してください。
- ・変速ギヤを前・後進とも1速にし、4駆レバーを「入」にして、ゆっくりと昇り降りしてください。



3736M-6101-0701-010

1. トラックを平坦な場所に停め、輪止めをします。
2. アユミ板のフックを荷台との段差がなく、また、ずれないように確実にかけます。
3. 前進にてゆっくりと積み込みます。
4. 車両を駐車し、ロープ、ワイヤ等で車両を荷台に確実に固定します。

本機での移送

⚠ 注 意

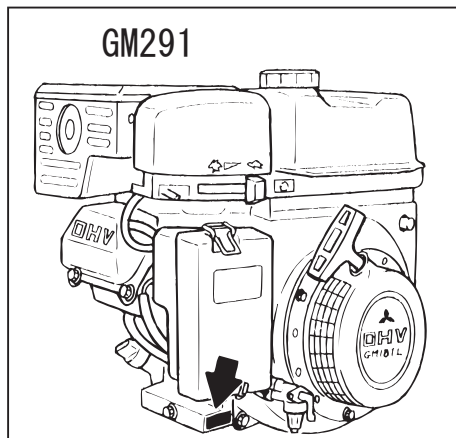
- ・ 本機に小型運搬車等を積み込んで移送する場合は、ダンプ防止ボルトを取付け、荷台を必ず固定してから作業をしてください。

小型特殊自動車登録申請の手引き

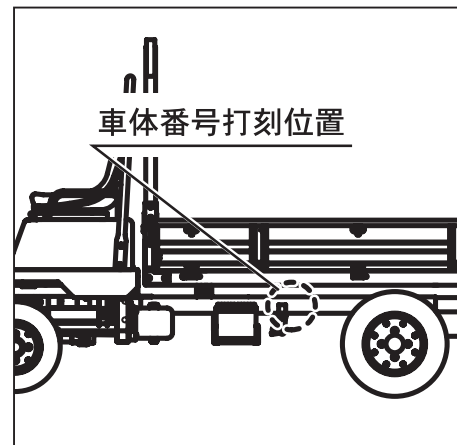
本製品の所有者となった方は、市町村役場に届け出てナンバープレートの交付を受けなければなりません。手続きの詳細については市町村役場でお尋ねください。また、本製品は自賠責（自動車賠償責任保険）に加入する必要があります。

搭載エンジン	三菱 GB290
種別用途	小型特殊自動車
車名	チクスイ J81
型式	チクスイ J81
年式	年式は購入された年を記入してください
原動機番号	エンジンの打刻を見て記入してください
原動機総排気量	296cc
車台番号	車台番号は車体の左中央部に打刻してあります
型式認定番号	特 2188
形状	ホイールキャリア

原動機番号位置



車台番号打刻位置



株式会社 筑水キャニコム

<https://www.canycom.jp/>

〒839-1396 福岡県うきは市吉井町福益90-1

.....
ご注文、製品に関するお問合せは

アドバンスオーダーセンター

TEL (0943)75-8055 FAX (0943)75-8060
.....

連絡先控え(販売店名)